

海外子女教育

5
2022 No.591

特集1

幼児のいる家庭と

「新型コロナ」

海外在住家族の二年半から

今月の顔
濱田樹里さん
日本画家、名古屋造形大学教授

受け入れ校紹介
育英西中学校・高等学校

海外校シリーズ
クアラルンプール日本人学校
グアム補習授業校

特集2

和楽器の世界

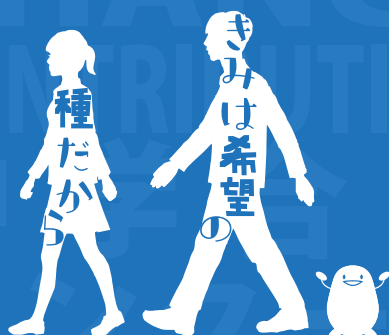
和の響きを尋ねて



帰国生オンライン入試

開催します!!

詳細は決定次第HPにて!



各国から
続々と受験
いただいています!

青稜中学校・高等学校
2022—2023

入試科目

中学校：国・算
(希望者は英語の追加が可)

高等学校：国・数・英

※試験詳細に関しましては、募集要項を必ずご覧ください。

学校見学

随時可能・祝日除く・予約不要

月曜～金曜
9/1～1/30
までの土曜日

10:30～15:00

8/31までの土曜日

10:30～14:00

※学校行事などにより見学が出来ない事もございます。
ご来校する際にはHPでご確認のうえお越し下さい。

違いという共通点からの出発
**同志社国際
中学校 高等学校**



帰国生徒 が、全校生徒の約 70% 在籍する学校

帰国生徒が日本で一番多く在籍する学校です。
キリスト教主義教育のもと、45カ国以上の国から帰国した生徒に対応する、一人一人の個性を生かした教育を実践しています。

帰国生のための 習熟度別授業 を展開

多くの教科で、学習背景に応じた習熟度別クラス編成を実施しています。
英語は、中学校で6段階、高等学校で4段階の習熟度別クラスを展開。また、第二外国語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国朝鮮語）を学ぶこともできます。

個々の希望に応じた進路 を実現

同志社大学、同志社女子大学、指定校を希望する生徒は、現在100%進学しています。
海外の大学、国内の国公立・私立大学への進学もサポートします。

学寮を完備（高校のみ）

単身で帰国した生徒、国内の遠距離から入学した生徒も安心して生活できる教育寮です。
寮は学校に隣接しており、寮監、寮母のもと、現在約90名の寮生が生活しています。

多彩な帰国生入試 を実施

中1では英語資格や作文、高1では語学資格や成績資格、小論文による入試を実施します。
また、それぞれの学年で教科による入試方法も選択可能です。
中1夏から高2夏までの各学年で編入学が可能です。
（詳細は、ホームページをご覧ください。）



学校・入試説明会

ホームページにて参加申し込み受付（受付は実施の1ヵ月程度前を予定しています）

帰国生徒対象

2022年 **7月 16日(土)**
8月 6日(土)

帰国生徒・国内一般生徒対象

2022年 **10月 8日(土)**
11月 5日(土)

同志社国際中学校・高等学校 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1

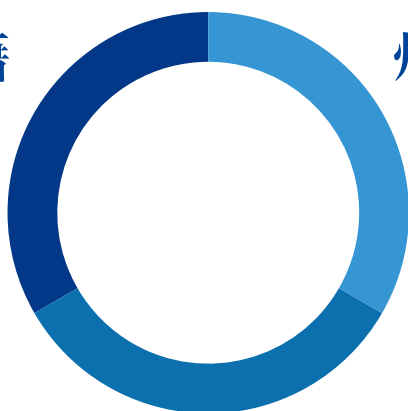
TEL: +81-774-65-8911 (代表)

※上記以外の一時帰国にあわせた個別相談・学校見学につきましては、別途お問い合わせください。



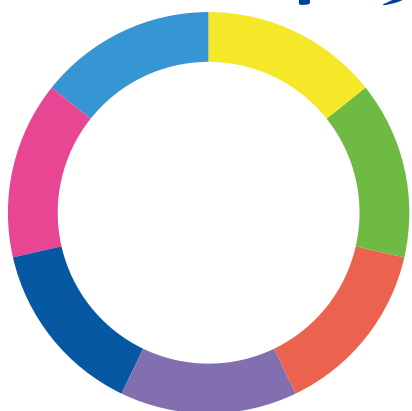
外国籍

帰国生



一般生

Feel The world
世界を感じて



年間入試回数



帰国生滞在国



関西学院千里国際中等部・高等部
SENRI INTERNATIONAL SCHOOL OF KWANSEI GAKUIN

海外子女教育

No.591 2022

5

*表紙写真

小学部6年生 日常風景
(クアラルンプール日本人学校)



ブルーモスク
(マレーシア・クアラルンプール)

C O N T E N T S

- 2 今月の顔 濱田 樹里さん (日本画家、名古屋造形大学教授)
- 4 特集1 幼児のいる家庭と「新型コロナ」
——海外在住家族の2年半から
- 14 特集2 和楽器の世界——和の響きを尋ねて
- 24 連載 家族／クロスカルチャー
子どもの人格を大切にする教育を (後編)
- 27 オススメの一冊
- 28 ◆受け入れ校紹介～学校会員ファイル (230)◆ 育英西中学校・高等学校
- 30 連載 JOES Davos Next
- 31 連載 1都1道2府43県めぐり 東京都
- 32 海外校シリーズ | クアラルンプール日本人学校
| グアム補習授業校
- 36 連載 校歌の広場 台北補習授業校
- 37 聞いてみよう！子どもの教育 海外子女教育振興財団 教育アドバイザー 後藤 彰夫
—子どもは現地校の勉強で手いっぱい、日本の勉強はすっかりおろそかになっています。どうすればいいのでしょうか。
- 40 連載 ことばキャンプ 親子の会話で豊かな語彙力をつける
- 41 連載 「KANJI」はおもしろい！ 旧字体と新字体
- 42 ニュース
○海外子女教育振興財団の2022(令和4)年度事業計画と予算が決定
- 46 海外子女教育振興財団 第43回海外子女文芸作品コンクール概要
- 48 連載 漫画「なっとうねばじろう」シリーズ

*維持会員企業・団体所属のかたはウェブサイト上 (<https://joes-kaiin.jp/joesportal/>) でも閲覧いただけます。
閲覧にあたって必要となるグループIDは、所属先の企業・団体へお問い合わせください。



公益財団法人

海外子女教育振興財団

海外子女・帰国子女教育の振興をはかるために、海外で経済活動を展開している企業・団体によって1971年に外務省および文部省(現 文部科学省)の許可を受け財団法人として設立されました。それ以来、政府の行う諸施策および維持会員の要望に相呼応して幅広い事業を行っています。2011年4月1日に公益財団法人に移行しました。財団の事業は、おもに維持会員からの会費によって成り立っています。財団のサービスはどなたでもご利用いただけますが、維持会員の皆様には有料サービスを無料または割引にて提供しています。(維持会員一覧表 <https://www.joes.or.jp/kaiin/>)

質感をじかに感じる感覚を表現

濱田樹里さんは二〇一二年、第五回東山魁夷記念日経日本画大賞を受賞し、次代の美術界を担う日本画家となった。高さ二メートル、幅十数メートルにも及ぶ巨大な和紙の画面に、ジャングルを思わせるような植物や自然など、さまざまな生命を描いた作品が多い。「幼いころインドネシアで見たものや感じたものが、やはり原点になっていますよね。大地に直接触れながら、あるいは包まれながら人間が暮らすことを実感したことが、作品のスケール感につながっています。」

また、世界各地から来た人との交流もありました。ヨーロッパの調度品や、ホテルなど空間の美しさ、バリやボロブドゥールなどの魅力……」

だから、巨大な画面空間に向き合うことと自身の原点に向かうことが重なり合ったのかもしれない。

「日本画は、岩絵の具を使います。天然の鉱石を細かく砕いた顔料をニカワで練りながら水を加えます。その水分が蒸発すると画面に定着するという原理です。和紙が張られた画面は絵の具が垂れないよう床に平置きし、上から絵の具を置いて描きます。その筆の置き方によって画面の質感に違いが出ます。ジャングルの赤土、雄大な植物のシルエツトなどあの大地から受けた生命力の強さ美しさ、それに触れた記憶を表現できないか……と考えながら描きます。さらには、時間の流



日本人が
軸として
感性を表現
したい

はまだじゅり
濱田 樹里さん

日本画家、名古屋造形大学教授

1973年、インドネシアのリアウ州で生まれ、3歳まで育った。帰国して名古屋で数年暮らすのが、小2からふたたびインドネシアに。ジャカルタ日本人学校で4年間学び、帰国して公立小学校の6年生に編入した。愛知県立旭丘高等学校から愛知県立芸術大学美術学部に進学、日本画を専攻する。1999年に同大学の大学院美術研究科を修了。学部卒業時から受賞歴は多く、2002年以降、個展、グループ展を毎年開くなど活発な活動が続けている。07年名古屋造形大学専任講師、13年准教授、22年から教授。



れ、地平線の彼方^{かなた}にある生命とつながる感覚なども表現したいのです」

正解のない世界を生きたい

父親は大手建設会社勤務で、インドネシアに飛行場や貯水ダムを建設するプロジェクトに携わっていた。ジャングルの里に生まれたので「樹里」と名づけられた。

「生まれたスマトラでは、家の周りも裸足で走り回って、自然に親しんでいたと聞いています。二度目の渡航では首都ジャカルタの新興住宅街に住みましたが、周辺はまだジャングルでした。南洋の太陽や風、目に映る色匂いや味など、懐かしい感じがしましたね。

日本人学校に通うにも、スクールバスで二十〜三十分、ジャングルの中の坂道を上がったたり下ったりします。その壮大な景色を見つめながら、『この世界にはどんな生命があるのだろうか?』と時空を超えた生命のつながりを感じていました。それは壮大で美しく強いものでした」

高校受験で選んだ学校は、昔「愛知一中」と呼ばれた名門校で、日本の財界に多くの人材を輩出している。ところが濱田さんは、普通科ではなくて美術科に進学した。

「勉強することは好きだし、それなりの成績ではあったのですが、答がない表現の世界を……もっと深みのある世界に入りたいと思ったんです。もちろん、普通科には著名な卒業生も多く、そういう人たちの価値観にも触れながら高校生活を過ごせたのは幸せでした。



ジャカルタ時代、犬といっしょに近所を散歩



制作風景 乗りに乗って上から絵の具を置いていく

それぞれの人が自分の個性を持っている……『自分自身の芸術表現の立ち位置はどこだろう』とずっと考えていました」

自分の世界観をこの世に遺す^{のこ}

大胆で生命力あふれる作品は伝統的な日本画とは異なるようにも思える。なぜあえて日本画で表現することを選んだのだろうか?

「日本人が何か『軸』としている感性、自分の中に本能のようにあるものを表現したいのです。その技法として日本画と出会いました。アジアの風土のなかでの芸術表現である日本画。時代を超えて引き継がれた技法や表現に触れつつ、自分の作品につながるものがありました。崇高な個性は確実な基礎力の上に成り立ちます。私は日本画の表現を通じて帰国子女としての経験を生かし、オリジナル性を求めて突き詰めます」

絵描きとして、自分の世界観を作品にすることでこの世界に遺していけること……鑑賞者が作家の世界に触れ、それが続くことに喜びを感じるという。

「いま海外にいる皆さんは、人間がいろんなビジョンを持ち人生を生きていること、そして自分を刺激し励ましてくれる原動力になるものを客観的に見る機会があるはずですよ。

自分にとって大切なものを見定め、目標を立てて着実に学んでいけば、かならず何かをつかめるはずですよ」と、若い世代にもエールを贈っている。

(取材・文) 小山和智

幼児のいる家庭と「新型コロナ」

海外在住家族の二年半から

新型コロナウイルスの登場以来、月刊『海外子女教育』では、その対応に追われた各地の在外教育施設や、緊急帰国した家族の体験などを特集してきた。

学齢期の子どもたちの様子を追っていると、そこに小さな弟や妹の姿が見え隠れすることがある。

「オンライン授業を受ける兄の横で幼児の妹が邪魔をする」「ずっと家の中にいるので、きょうだいげんかが増えた」……。そんなコメントを読むたびに、小さな子どもがいる家庭ではいったいどんなことが起こっているのか、とても気になっていた。

今回、月刊『海外子女教育』では、新型コロナウイルスのパンデミック時に海外で幼児と共に暮らしていた日本人家族に対して、記入式の調査を実施した。大人でも対応に苦慮した未曾有の事態を子どもはどう捉えたか、大人は子どもをどのように守り、育ててきたか――。

世界各地から寄せられた声をもとに、幼児・乳児のいる家庭にとってのこの二年半をふり返ってみた。

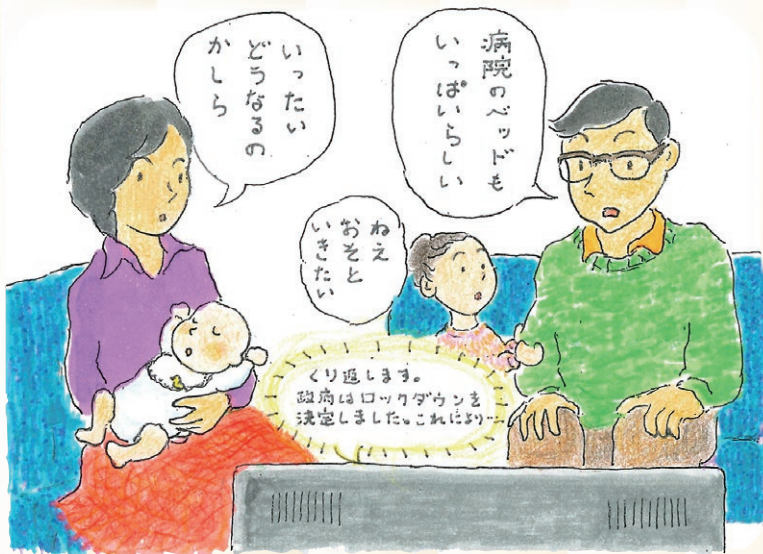


イラスト Zen

調査では、グーグルフォームの調査シートへの入力を依頼した。本誌編集部より各地の在外教育施設の幼稚部などに呼びかけたほか、編集部記者のFacebook等から依頼した。

開始数日で数十件が集まり、最終的には約80件のコメントをいただいた。本記事に引用したのはその一部である。長文のものも多かったので、誌面の制約上リライトしたことをご理解いただきたい。

なお、幼児教育や保育施設には多様な形態があり、幼稚園、プレスクール、ナーサリーなど呼称もさまざまである。国によって制度も異なる。しかし本稿ではこれらを特に区別せずに、幼児・乳児が通園して教育・保育を受ける施設と捉えた。

記事中の教育施設や学年の表記は原則としてコメントの記載に従い、特に年齢が重要と思われる部分には個別に記載した。

パンデミックのはじまり



新型コロナウイルスは二〇二〇年の年明けから感染が拡大しはじめ、数カ月で世界中に広まった。この時期、小さい子どもがいる家庭で、保護者の不安はどれほどのものだったろう。

幼児や乳児にどんな影響をもたらすウイルスなのか。「子どもは重症化しにくい」といわれても、小さい体が激しい咳や高熱に耐えられるのだろうか。生まれたばかりの赤ちゃんもいる。子どもたち自身は自覚していなくても、周囲の大人はいままでの子育ての常識が通用しないことを感じていた。

ましてや海外の医療事情は日本とは異なる。万が一子どもが罹患したらどうしよう。非常時の病院で、外国人が適切に診療を受けられるのだろうか。病院でことばが通じるだろうか。そして、もし保護者が罹患して、子どもだけが安

に取り残されることになったら。このコロナ禍では友人に預かってもらうわけにもいかない。

コメントには、当時の不安が生々しくつづられていた。

いろいろなことが初めてで、何が正解かわからず不安だった。現地の感染状況が刻一刻と悪化し、情報も更新されていくので、正しい判断ができていくのか精神的に苦しかった。(さくらさん)

夫が仕事で外出するので、いつかウイルスを家庭に持ち込んで家族全員感染してしまうのではないかとという恐怖があった。

(KYさん)

感染者数が多く、家の中でどう楽しく生活するかを考えるのにいちばん苦労した。(Oさん)

両親が感染して身動きが取れなくなった場合の対応を話し合った。

(MSさん)

もし感染したら、身元が特定されて差別されるのではないかと不安だった。(Nさん)

パンデミックを迎えたとき、全員が同じ場所にいた家族ばかりではない。

日本では人事異動のシーズン。もともと海外駐在員は国内外への数週間・数カ月にわたる出張も珍しくない。地方の支店や工場に長期出張しているケースもあるだろう。平時ならばごくあたりまえでも、不安なときに家族がいっしょにいられないことは、小さい子どもにダメージが大きいことに違いない。

夫は単身赴任中で、家族は日本にいた。長男は幼稚園で父親の話になったときに涙を流すなど、情緒が不安定になった。次男は生まれてから父親といっしょに暮らせていなかったで、やっと会えたときに父親を受け入れられなかった。(Kさん)

夫の単身赴任中、長女(小4)、次女(小2)、三女(幼稚園年少)の三人共、ウイルスの写真がテレビに映ると目を逸らしていた。次女は、コロナのニュースを見るのもいやがり、自分も胸が苦しい、

息ができないと泣くことがあった。(RMEさん)

ロックダウンとステイホーム

各地でロックダウンやそれに準じた措置がとられるようになった。子どもたちは登校できなくなり、企業はテレワークに切りかえるところが出てきた。外出は制限されたので、大人も子どもも一日中家にいることになった。

テレビ・動画やゲームの時間は増える。子どものオンライン授業はつきつきりで補助が必要だ。食事は全員が三食自宅とする。そのため買い物の量も手間も増えるのに、スーパーは長蛇の列。保護者はこれらの難題に、まだ目を離せない幼児・乳児を抱えて立ち向かわなくてはいけなかった。子どもたちだけの留守番が禁じられている国もあっただろう。

スーパーに子どもを連れていける雰囲気ではなく、正直アジア人差別も怖かったので、3歳と5歳の娘をふたりだけで留守番させるしかなかった。(FUYUさん)



思うように外出もできず、友達とも遊べず、子どもたち（長女小2 長男キンダー 次女プリスクール）も退屈だったと思う。食事の用意も子どもたちの様子を見ながらでたいへんだった。（RKさん）

親が仕事をしている間、子ども（保育園）がひとり静かにできるように、ビデオを見せる時間が増えている。（MAさん）

両親共に在宅勤務となった。子ども（幼稚園2年）にとっては、親が家にいるのに仕事をしているので遊んでもらえないという複雑な環境だった。（Murataさん）

ロックダウンは外出時間が一時間と決まっていたため、子ども（幼稚園）が発散できなかった。子どもがいつしよだとなかなか家事も思うように進まず、テレビに頼ることも多くなった。日本ではあま

り見せていなかったのに、テレビが習慣づいてしまってたほうとうに残念。（ねこみみさん）

子ども（G6、G2）のオンライン授業を見ながら家事や買い物、幼い子（年少）の相手がたいへんだった。夫もリモート勤務だったので、買い物はひとりで行くことができた。（かなこさん）

毎日一時間以上ランニングマシンで歩いたり、全員で体操をやったり、鉄棒、バレエなど、できるだけ運動するようにした。自宅の庭に限り、天気がいい日は外に出て遊ばせた。暗黙の了解で、近所の子と時間がかぶらないようにみんなが気をつけていた。（OSTINさん）

在宅時間が増えて、ゲームやタブレットでの動画視聴が長くなっている。（HAZYさん）

家族が陽性になったが、Y4とY1、乳児の子どもたちを分けて隔離するのは不可能だった。（yu-touさん）

長男（Y5）と次男（4歳）は何をするにも興味が違い、兄弟げんかが増えた。（AYUMIさん）

保護者が感染者と接することもある仕事についている場合、家庭内での過ごし方も難しい判断を迫られることになった。

高齢者のための福祉施設で管理職を務める夫は施設のコロナ対応に忙殺された。勤務先で感染者が出ている間は、陽性でなくても、子どもたち（年中、0歳）にうつさないように別の部屋で隔離し、食事もそこでとってもらった。（小西さん）

ステイホームに関する嘆きは多かった。しかしなかには、充実した時間を持つことができたという声もある。

子ども（5歳）といっしょに工作やピアノや遊びができて、ある意味、非常に有意義な時期だったと思う。（KDさん）

在宅勤務と子どもの世話の両立がとてみたいへんだったが、家族

が全員いるので子どもたち（長女・次女とも年長）は喜んでいて、精神的にはとても落ち着いていた。

（KEさん）

とにかく家の中でできることを探した。いっしょに料理をしたり、動画を見ながら体操をしたりした。ストレスをためないように家の中で過ごす方法を日々模索していた。

（FUYUさん）

ストレス発散のため、ウォータートーブルを購入したり、お水でお絵描きしたりプールで遊ばせた。

（MAAさん）

オンライン生活と

幼児

小・中学校では、インターネットで家庭とつないで授業やホームルームを実施した。オンライン授業は子どもたちにとっては初めての経験で、当初は保護者が世話をする必要があった。

保護者自身がテレワークになった家庭も多い。しかし「パパはお仕事」「ママは会議」と言い聞かせたところで、子どもたちはパパ

とママが目の前にいたらいっしょに遊びたくなる。

オンラインでは、カメラやマイクをオンにすることになる。できれば静かな個室が、最低でもPCを設置する場所が必要だ。そしてオンライン中は雑音を入れないでほしい……。でもそんな大人の都合は、幼児や乳児には通じない。

両親共に在宅ワークで、子ども（保育園）が頻繁に仕事の邪魔をし、家も狭く、お互いにストレスがたまった。（MAさん）

オンライン授業は親の役割が大ききく、毎時間長女（小1）の進捗確認と提出物の管理に追われた。生まれたばかりの長男の世話と重なり、かなり負担だった。

（ラムネさん）

長男（小1）の学習の補助をしていると、次男（年中）は放置せざるを得ない。タブレットは兄が学習で使用し、テレビもつけられないので、次男は本を読むかひとりで遊ぶしかなく、とてもかわいそうだった。（T・Oさん）

両親共フルタイムのリモート勤務、上の子（小3）は授業。誰にもかまってもらえなかった。下の子（保育園）は一時期幼児返りのような状態になった。（TGさん）

長男（小2）のオンライン授業につきっきりで、その間次男（年長・長女（年少）の相手ができず、親は罪悪感を、子もストレスを感じていた。次男はチック症状が出た。（TAさん）

夫も在宅勤務となり、皆が家にいるので家事も増えたいへんだった。子ども（キンダー、3歳）をある程度は規則正しく過ごさせたかったのに、それを管理するのも苦労した。ロックダウンで公園にも行けなくなり、精神的な閉塞感がつらかった。（かわせみさん）

幼稚園の オンライン授業

幼稚園等でもオンライン授業や配信があり、単調になりがちな生活のなかでそれがペースメーカーの役割を果たした。先生や友達とインターネット上でも交流できる

機会はありがたかったという。とはいえ、幼児にオンライン授業を受けさせるのは、保護者にとってはいへんなことでもあった。

上ふたり（中1、年中）がオンライン授業になり、年中がPC操作に慣れるまでしばらくつきつきりになったので、下の子（2歳）にかまえなかった。（HIROさん）

0歳の長女を見ながら長男（キンダー）のオンライン授業の手伝いをするのがたいへんで、ついはいくのが精いっぱいだった。そのため息子を叱ってしまうことが多々あり反省。（ニコさん）

三人（小4、小1、年長）が家の中でオンライン授業をしたのでお互いに邪魔になり、ストレスがたまつて兄弟げんかが増えた。オンラインは目が疲れる、聞こえづらい、先生からは一人ひとりの状況がまったく把握されないまま授業が進んでいく、集中できないなど、非常に不便だった。

（C・Wさん）

幼稚園の次男はオンライン授業

をいやがり、参加しなかった。
(さいとうさん)

帰国の検討とハードル

日本への帰国という選択肢を検討した家族は多かったが、現地にどまることを選んだ家族も少なくない。勤務先から帰国指示や許可が出たケースもあった。帰国をめぐる決断は、やはりさまざまな思いに揺れていた。

現地の方が感染対策がしっかりしており戻りたくなかった。
(TOMOさん)

滞在国の方が安全だったため帰国は検討しなかった。(T・Oさん)

飛行機での感染リスクや身体的ストレスと、現地でのロックダウン生活を天秤(てんびん)にかけた末、どまらることを決めた。(TANPOPOさん)

帰りがたかったが、行き帰りの書類・手続きが煩雑(はんざつ)そうで、帰る決断ができなかった。(S・Mさん)

空港検疫や隔離期間を考えると、帰国は考えられなかった。

(CHIさん)

飛行機での移動をしなくなかったため、落ち着くまではこのまま滞在することにした。(ISHIさん)

日本では当初国内の感染者数があまり多くなかったせいか、海外からの帰国者が警戒される雰囲気もあった。海外在住家族にとって、それは高いハードルになった。

現地の状況が日本よりも数段悪化していたため、逆に日本への帰国がためらわれた。(かしわさん)

実家が反対したので帰国できなかった。道中で感染して、両親にうつしてしまうかもしれないという恐怖感もあった。(YAYOIさん)

複数の子どもを連れての一時帰国は、平常時でも楽ではない。そこに、コロナ禍ならではの特別な事情が重なった。

現地の学校が休校になると聞いたので、開校している日本に母と

子ども三人(日本人学校、幼稚園)で一時帰国した。空港で、そして空港から隔離生活に入るホテルまでがたいへんだった。

(えだひろさん)

ずっと家の中で過ごすよりも日本の幼稚園に通わせた方が子どもたちの発達にいいと思ったし、実家の力も借りたかったので帰国。実家のある地方への直行便を予約するのがたいへんだった。到着後二週間の隔離をする宿を探すのも苦労した。(ゆかりさん)

帰国に関する情報が一本化されず、外務省・厚生労働省・領事館・航空会社どこに電話しても全部わかる人がいない、また、突如状況が変わるわりにはアップデートが遅く、複雑で煩雑なことが多かった。何でも予約制や時短になったのも困った。

(HIROさん)

検査等で長時間待たされた。その間に子どもたち(小2、年中)が寝てしまい、たいへんだった。(A・Sさん)

母ひとりで子ふたりを連れて長い検疫を通過した。乳児が泣きわめくなか、ふだん聞き分けのよい長女(小1)も疲れがピークに達して泣き出し、親の方が泣きたくなった。(ラムネさん)

空港の長い待ち時間の間、子どもが動き回り、あちこち触って心配だった。(YUKAさん)

それほどたいへんであっても、やはり帰国してよかったという声もあった。

パンデミック下ではあるが、日本での生活を満喫できた。

(HRさん)

新赴任

各国のロックダウンで一時は世界中で往来が途絶えたが、長期化するにつれて新しい海外赴任も少しずつ再開している。

海外赴任もこれまでの流れとはさま変わりしている。渡航手続きは頻繁に変更され、その対応に追われることになった。

感染状況と入国規制措置をうかがいながら、数カ月おきに渡独予定・延期を繰り返し、乳児を抱えながらの準備がたいへんだった。
(二児の母さん)

父親が先に出国。母は、ワンオペ育児でパートもしており、買い出し、引越し準備、役所手続き、仕事を子どもたち（年長、2歳）の降園までに終わらせるのがたいへんだった。役所や銀行などの窓口業務が予約制になって困った。
(あつさん)



新型コロナの登場から、二年半が過ぎようとしている。それは生まれたばかりの子どもが走り回るようになり、しゃべりはじめるくらいの長さだ。この短くも長い時間は、子どもたちに、そして保護者にどんな影響を与えるのだろうか。

十年後、このコロナ禍がどう子どもたちに影響するかが心配。しわ寄せはかならずあると思う。
(MOさん)

日本からの物資輸送サービスが止まり、飛行機が減便し、水際対策で帰国者への世間の当たりがきつくなり、日本から拒否されているように感じた。海外で日本人が暴行されたというニュースを見るたびに、海外にも日本にも居場所がないようでつらかった。子どもたち（プリスクール、自宅保育）のストレスにどう対応したらよいかまったくわからなくてたいへんだった。一時避難で帰国したとき、到着空港で過呼吸になり、帰国中は精神科に通った。海外からでも、もっと気軽に子育て相談できる窓口があればいいのにとずっと思っている。
(ゆかりさん)

いつ感染するかと考えると怖い。いざ感染したとき、異国の地でこゝとばが通じないなかで受診するのも怖い。
(末田さん)

コロナを理由に子どもたちの楽しみを奪わないでほしい。

(KEIKOさん)

ワクチンに関するさまざまなうわさもあり、特に子どもたちの将来への影響が心配。
(MSさん)

子どもへどう影響するかわからないので、いまでも恐怖を感じる。頼れる親族も近くにおらず、もし感染したらと思うと怖い。
(FUYUKOさん)

新しい生活様式

学校や幼稚園で「コロナ対策」をしつかり教わった子どもたちは、マスクのある生活をすんなりと受け入れているようだ。ステイホーム、マスク着用や手洗いなどの新しい生活様式は、パンデミックへのいわば対症療法として緊急的に導入・実施されたものだ。これらが、私たちの生活や社会にどのような影響を与えるのかはまだ誰にもわからない。すでに学術的な実験と研究が始まっているものもあるが、説が定まるにはまだまだ時間がかかりそうだ。

マスクの悪影響は？ 体力の低

下は？ 新型コロナの後遺症は？ ワクチンの安全性は？……。保護者の心配の種は尽きず、ストレスは募る。

長期にわたるマスク着用が心配。学校でもつねにつけているので、脳の発達に影響しないか。コロナウイルスに感染した場合のその後の影響はどうか。
(CAさん)

オンラインでデジタルデバイスを使うようになり、運動不足、視力の低下が心配。
(キムラさん)

灼熱の夏もマスク着用。お昼寝中もマスク着用。あたりまえのようにならなかつたが、つらいと思う。
(YMさん)

長女（年長）は、マスクを外すこと、食事中におしゃべりすることにとっても恐怖感を持っている。
(あつさん)

外遊びなど屋外で体を動かす機会が急激に減ったことで、子どもたちの今後の心身の発育に影響がないか心配。
(TANPOPOさん)

子どもが気軽に友達と遊ぶことができなくなってしまったのが心配。(A・Sさん)

幼稚園などで過ごすことで、幼児は学び、社会性を培っていく。その場が失われたことは、同時に発達を促す刺激や、体を動かす機会が減少してしまったことでもあった。

乳児の娘は、家の中でしか体を動かすことができない。(YAMAMOTOさん)

外に出られず友達と遊べないことや教育面で遅れが出ないかが心配。(C Aさん)

娘(プリスクール)は、友達や先生と社交する場が奪われてしまい、かわいそうだった。母から教わるよりも教師から教わった方が自然に学ぶ姿勢ができると思う。(ITSYさん)

アクティビティがキャンセルになり、子どもたちの体力が低下し



ている。ゲームやタブレット使用が増え、学校の授業も短縮で、学力低下や子ども同士でのコミュニケーションなど社会性の欠如が気になる。(藤巻さん)

ソーシャルディスタンスを取れば屋外での適切な息抜きは可能だから、友達と遊ばせてやりたい。しかし家庭によってコロナについての考え方が異なることもある。

感染予防に関して同じ感覚を持っていた友人同士の子どもとは屋外で遊んだり、家の庭でプール遊びなどをしたりした。(S・Hさん)

コロナが長引くなか、それぞれの家庭で考え方が違い、以前のように会えなくなったのが悲しい。(TOMOさん)

プレイデートの誘いがあっても断ったり、あるいは断れなくて参加しなければならなかったりしてストレスに感じた。(TGさん)

自宅に引きこもろうと思っていたのに子どもの友達が遊びに来てしまい、どのようにいっしょに遊

ばせるかとても悩んだ。「遊べない」と断るのがとてもつらかった。(Miさん)

子どもの言語・学びへの不安

本来ならば大量のことばを覚える時期に外に出ることができず、幼稚園や学校といった社会的な場が失われた。それが言語や学び、そして社会性の育成にどんな影響を及ぼすのか。保護者にとっては、最も気がかりなところだろう。

生後三カ月からフルタイムの保育園に行っていた下の子(年中)は、四カ月の自宅生活で英語をすっかり忘れてしまった。保育園が再開されたとき英語がわからないからといやがり、再適應するのに長い時間がかかった。(TGさん)

長男(キンダー)が英語を家で使うことをいやがり、結果的に三カ月ほど英語を使わない生活になってしまった。そもそも自宅で学習することが集中できず難しかった。(かわせみさん)

ひとりっ子なので、同世代としゃべる機会を失い、口数は明らかに減った。(結城さん)

表情豊かにハッキリと話しかけることが、幼児のことばの発達には効果的といわれている。画面越しに届く先生の表情と声は、いつもと同じではない。せつかく対面授業ができて、マスクは顔の半分を覆ってしまうし、声は不明瞭になりがちだ。言語習得期の幼児にとって、こうしたことの影響を心配する声は多かった。

学校でもマスクをしているので、特に英語の習得の妨げになっていると感じる。表情も読みづらいので、特に小さい子どもには影響が大きい。(Y・Kさん)

教員がマスクを着用しているのので、子どもたちの言語獲得に遅れが出ているのではないかと懸念している。(IHさん)

家庭内でのことばは単調なのか、お話ができていないと感じた。(安藤さん)



地域と日本人コミュニティ

コメントには、教育施設や在外公館、そして日本人コミュニティへの感謝のことばも見られた。

また、現地政府の力強い情報発信や学校の対応を評価する声も多かった。

現地のニュースを次々に翻訳してくれるサイトやSNSは人々を勇気づけたし、対面の活動が制限されてもネットワークは活発だった。保護者の多くがデジタルネイティブ世代だったこともあるだろう。情報収集は、ニュースを一方的に受け取るだけではなかった。アナログな助け合いもあった。

デジタル時代にも、人間同士の心の交流はある。地域のコミュニティのよさをあらためて実感した

人もいただろう。

日本人つながりでサッカーを続けられてストレス発散になった。(I23さん)

自宅隔離中に友達がドアに食料をかけておいてくれた。(AJさん)

つきっきりの勉強サポートと家事に疲れていた時期に、子どもが巣立った友達が手づくり料理をシェアしてくれた。(HIROさん)

隔離期間中に友人が買い物代行を申し出てくれたり、息子の友達がバルコニーの下まで会いに来てくれた。ビデオ電話で人とのつながりを保てた。(のりこさん)

自主隔離期間中、州外の友人、義理の弟、娘の学校の先生など、食材を自宅にコンタクトレスで届けてくれたことがとてもありがたかった。(ISSYさん)

消毒用アルコールが買えないとき、日本から持ってきていたマスクと交換したりした。妊婦のとき、

優先で買わせてくれてありがたかった。(MAAさん)

感染したときは、市から二週間の食事が家族分届き、助かった。(MIKOさん)

学生をしながらシングルマザーとしてふたりの子ども(Y5と4歳)を育てているが、自分の授業と休校になった子どもたちの育児が重なった。いちばんたいへんだった時期に、ソーシャルワーカーの特別のはからいで、エッセンシャルワーカーの子どもたちといっしょに登校させてもらえるようになった。(Ayumiさん)

こうしたエピソードからは、厳しい環境下でも人の温かい心が生きているを感じさせられた。

世界中で感染拡大した新型コロナウイルスだが、国によって状況も対応策も、そして感染者への社会の視線も異なっていた。日本では感染した芸能人が謝罪したり、医療従事者が差別されたり、帰国者が警戒されたりということもあった。そういう日本に比べ、「現地は

のんびりして楽だった」というコメントも多かった。ただでさえ神経が休まらないパンデミック下の異国での子育て家族にとっては、それは不幸中の幸いであつたかもしれない。

アメリカの感染状況やヘイトクライム等、日本から見ていたら「なんて危険なんだろう」と思っていたかもしれないが、実際に暮らしていると、そこまでの危機的状況は感じなかった。現地の人はコロナに対して楽観的だった。

(Y・Kさん)

約三カ月間の厳しい外出制限の間、フランスでは毎日二十時になると、医療従事者に向けて、近所のみんながベランダから顔を出して拍手していた。それが唯一近所の人々の笑顔を見られる時間で、子どもたちもその時間を楽しみにしていた。(FUYUさん)

近所の人が金曜日ごとに音楽をかけて、ストリートディスコを開いてくれた。(小池さん)

暮らしの変化とこれから

コロナ禍で暮らしは大きく変わらざるを得なかった。しかし、家族のきずなが深まった、新しいことにチャレンジできる機会が生まれた、読書の習慣がついたなど、前向きな変化を感じている人もいる。

通勤時間がなくなったおかげで子どもとの時間が増え、食事も時間をかけて準備でき、新しい習い事もさせることができたので、プラスの方が多かったと感じる。子どもたち(小3、年中)も読書をするようになり、親と話す時間も長くなったので、日本語が上達したように思う。(TGさん)

家族で過ごす時間が増えてよかった。(E・Oさん)

家族でたくさんいっしょに時間を過ごせたことと、前の仕事を割り切って辞め、家庭に専念できたことがよかった。(KEさん)

オンライン授業の実施はたいへんだったが、教育は途切れることはなかった。オンラインゆえのメリットもある。感染不安のなか外出しなくてすむこと、遠距離の補習校への通学負担の軽減である。

学校関係者の、子どもたちの教育の場を奪ってはならないという強い思いを実感しており、感謝したい。(ラムネさん)

夫の仕事柄感染は避けたかったのですが、自宅で勉強させ過ぎしている方が安心だった。(小西さん)

子どもたち(G1、年少)は、平日は現地校とデイケア、土曜日は補習校で、日曜日はいつも疲れて休んでいるが多かった。休校になって、ふだんはできないアウトドアの軽いアクティビティができた、自然観察や動物観察ができて、とても喜んでいた。

(I・Sさん)

自宅のある田舎から毎週土曜日に首都にある補習校まで通う必要がなくなり、少々ホッとした。

(MOさん)

感染拡大初期には単身赴任していたが、コロナ禍を経て昨年から家族帯同に踏み切った家族もある。

感染の不安より、家族でいっしょに生活することを優先した。妻は退職し、子どもたちは大好きな日本の保育園を退園して、私の仕事を優先。家族に負担をかけることに悩みもあった。コロナ環境下で、家族が渡米して私といっしょに住むことを決断してくれたことに感謝しなかった。家族のきずながよりいっそう強まった気がする。(今岡さん)

各地の学校や幼稚園は、次なる感染拡大をにらみつつも、徐々に再開している。寄稿のなかには、子どもたちの場を守る補習授業校教員からのものもあった。

二〇二二年十月から対面授業になった。年長・年中児を担当しているが、子ども同士で助け合ったり、順番を守って遊んだりしているのを見ると対面に戻ってよかったと思う。オミクロン感染拡大で図書室・体育館の利用を中止しているのでクラス内のみで過ごして

おり、身体を動かしたくて仕方がないようだ。

子どもたちは手洗いを忘れた、マスクがずり落ちていたなど指摘されることは多いが、習慣化していいやがらずにすぐに対応してくれる。教員としては、クラスにはワクチンを接種できない年齢の子どももまざっているため、感染者が出るのではないか、重症化しないかと不安だった。クラスのひとりが外部で感染したが、濃厚接触者の特定も必要なく、辛い授業を続けることができていた。

(Mさん)

子どもたちの未来へ

いま、我慢の日々を過ごしている子どもたちにしてあげたいことは何だろう。友達と思い切り遊ばせたいとか、学校行事をさせてやりたい、帰国して祖父母に会わせてやりたいなどの具体的なイベントの実現はもちろんだが、「子どもをどう守るか」「どのように学ばせるか」など、保護者自身がこれからの子育てや生き方について深く考えたコメントがいくつもあ

った。

世界各地でまだまだ日常生活が制限されている現在、新型コロナについてポジティブな気持ちを持つのは、ちょっと難しいかもしれない。しかし最後に、未来をしつかりと見据えた前向きなコメントを紹介したい。

自由のありがたさを感じた。家族の結束など、コロナのおかげで得られたものもたくさんあった。

(金井さん)

どのような環境でも子どもは順応し成長していくので、親が不安になりすぎないことがいけばんだ切だと感じた。(Y・Kさん)

パンデミックの最中、今後どう生きていきたいか、どういう環境で子どもを育てたいかをじっくり考えることができたのは非常に良かったと思う。(KDさん)

たいへんな世の中だが、親子共にいろいろなことに気づかされたので、今後のことを思うとよい経験だと思った。(T・Kさん)

家庭環境の悪化で荒れている子どももいる。それをどのように子どもたちに説明すればいいのか悩んでいる。社会的な格差のことなどについて、理解を促していきたいと思っている。(Murataさん)

上の子が、コロナについて小学生なりに理解して、医学に興味を示して勉強に精を出すようになったことは大きなプラス。

(TGさん)

コロナに限らず、今後も自然災害や未知の病原菌が私たちを苦しめるだろう。そのときにどのように対応していくのか、どうやって子どもを守っていくのか。コロナ禍でいろんなことを考えた。

現地のかたと連携を取り、自分たち自身ももっと強くなっていく必要がある。その姿勢が、未来を守る子どもたちにつながっていくと思う。(Ayumiさん)

新型コロナウィルスのある生活は三年目に入った。

さまざまな新しい生活様式を受け入れ、ウィルスか

ら身を守ることを考えながら過ごす日々。一人前の大人でも対応に苦慮し、ときには大きなストレスを抱え、この先いつまで続くのだろうと弱音を吐きたくなることもある。そんななかでも子どもたちは育っていく。

この二年半、子どもたちに寄り添ってきた保護者のコメントからは、書かれている内容こそ厳しかったが、たくましさのようなものも垣間見え、うつすらと希望の光が差し込んでくるような気がした。

苦しい体験をふり返り、詳細な情報と率直な心情をつづてくださった皆様、深く感謝申し上げます。



特集
2

和楽器の世界

和の響きを尋ねて



雅楽・管絃

演奏形式は器楽を演奏する管絃、舞を主とする舞楽、声乐を主とする歌謡がある

写真提供「日本雅楽會」



二〇〇二年から実施された中学校学習指導要領に「和楽器については、三学年間を通じて一種類以上の楽器を用いること」と記された。明治以降西洋音楽を中核に据えてきた学校音楽だが、やっと和楽器に目が向けられたことになる。日本にはじつに個性的で存在感のある楽器がたくさんある。古来、曲をつくる人、楽器をつくる人、演奏する人がそれぞれの和楽器の音色を今日まで伝え継いできた。この特集では、そんな和楽器の魅力に触れてみたい。



大太鼓演奏

写真提供「日本雅楽會」

取材・文 高田 和子



箏



笙



日本の伝統音楽

音楽は時代ごとに文化の担い手と深く関連して発展してきた。その発展の道筋をたどるとともに、日本の音楽の特徴とそれを奏でる和楽器の魅力について洗足学園音楽大学教授の松尾祐孝先生に聞いた。

日本の伝統音楽の大きな流れ

日本には前史時代から韓国や中国から伝わってきた楽器があったことが埴輪などによってわかって

いる。けれども歴史上資料が残っているのは奈良時代からだ。

奈良時代、東大寺大仏開眼の際にインドの僧が来日して儀式を行ったが、そのときに和楽器のルーツとなる数々の楽器が使われたと推察される内容が当時の記録に残っている。正倉院には当時使われていた雅楽器や箏、琵琶の原型も保存されている。

平安時代になると貴族階級のみで大陸文化が吸収されて日本独自の音楽が少しずつできあがって定着していく。そしていまに継承

される雅楽が形づくられ、おもに皇室や貴族を中心に、また神社や寺院の祭礼などで演奏されてきた。貴族たちは琵琶や箏のほか笙、篳篥、龍笛などの笛を奏でていたという。

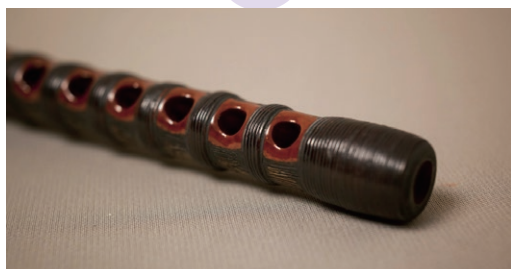
鎌倉時代からの侍の時代になると、武士たちがたしなみとして能を舞い、能楽が発達した。能舞台では雅楽で使われる龍笛をわざと音をコントロールしにくくした能管が生まれた。音程を取りにくくすることで幽玄な音色が出る。

「能は静かなものと思われていますが、ときにすごいテンションになります。ヒューッと西洋の楽器には絶対に出せない音色を出し

篳篥



龍笛





まつお まさたか
松尾 祐孝さん

洗足学園音楽大学教授、作曲家

1959年生まれ。1984年東京藝術大学大学院修士課程修了。ACL 青年作曲賞第1位、ISCM'92 ワルシャワ大会入選等、国内外で受賞多数。

ISCM 世界音楽の日々2001横浜大会実行委員長等、国際交流にも尽力。

邦楽器作品の作曲にも積極的で、国立劇場、現代邦楽研究所等からの委嘱作品を多数手がける。

ます」

江戸時代は町人文化が発展し、芝居小屋で行われる演劇と音楽の総合芸術である歌舞伎が生まれた。この時代は都市に住む中産階級が力をつけてきて歌舞伎を楽しむ町人がいた。貴族だけではこのように大衆には広がらなかっただろう。そして、幕末から明治維新にかけて西洋文化の波が押し寄せ、当然西洋の音楽も入ってきた。

「西洋音楽は理論的です。一つ一つの楽器の個性はありますが突出した個性は必要なく各楽器が微動だにしない音を真つすぐ出し、溶け合って和音を鳴らします」

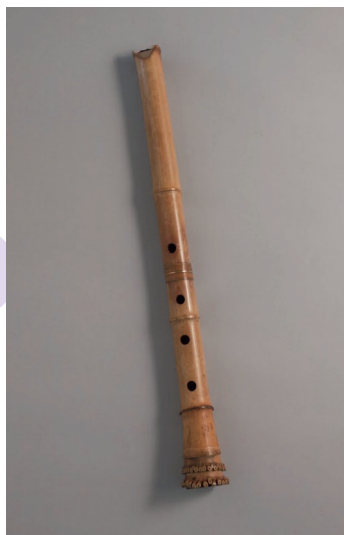
日本の楽器はそれぞれの分野が

個別に発展し、一つ一つに強烈な個性があった。だから合奏という概念はあまりなかった。けれども西洋音楽の影響で日本でも器楽合奏の概念が進展した。

大正時代から昭和初期にかけて、宮城道雄等が中心となって新日本音楽運動が勃興し、西洋音楽の概念をとり入れながら今日の邦楽の合奏の原型がつくられた。西洋には低音を出す楽器があるが和楽器にはない。そこで宮城道雄が低音の出る箏をつくった。それが十七弦だ。箏は一般的に十三本の弦を持つが、これは文字通り十七弦ある。これまで挙げた例だけでなく、日本には地域ごとの祭礼や民族芸



十七弦



尺八

能なども多く存在した。一例を挙げると尺八は禪寺でお経を読む代わりとして使われたもので、寺ごと独自に伝わりいまでもほとんどそれぞれ同じ形で残っている。また、日本各地で行われるお祭りではその地特有の笛が奏でられその地にそのまま残っている。

「日本の楽器のなかには改良されたものもありますが、多くはあります。なるべくいい味わいをそのまま残しておきたいという思

いが日本人の心の根底にあるように思われます」

このように、和楽器の元祖は大陸から伝来し、それを日本独自にアレンジしたものがそれぞれそのままの形で同時に併存した。そして一つ一つの楽器が普遍性と存在感を持っていまでも残っている。

だから和楽器の種類はとて多い。「そんな楽器がゴロゴロしている国は珍しいです。世界に誇るべき文化です」

和楽器と音階、楽譜

古代中国の音楽理論は整然としていて、それを引き継いだ雅楽の理論も合理的で、現在もそれが引き継がれている。けれども基本的に日本人はかならずしも合理的な思考を優先させるのではなく、さまざまな楽器や分野の発展のなかで、自然体でおのおのの演奏法をつくり上げてきた。したがって音階に関してもそれぞれの楽器や分野でそれぞれに決まっていた。日本の音階はヨーロッパのような数学的に割り出したものではなく、西洋音階に照らして考えると自然発生のままの近似値として捉えられたといえる。

「日本文化特有の、合理性より感性を重んじる伝統があるのでしよう」

人類共通の認識として、また物理的真理として一オクターブの概念がある。周波数が二倍になると一オクターブ上の音が鳴る。音階に違いが出るのは一オクターブのなかでの区切り方の個性だ。

「五音くらいが落としどころだ

ったのでしよう」

音階を二つに大別すると、半音が入っている五音と半音がない五音で、この二つは音調が違う。半音がない五音は明るい感じで半音がある五音は短調のような陰りのある音調を醸し出す。童謡などによくみられる「ヨナ抜き」は五音階の伝統を西洋音楽音階的にフィットさせたもので、日本的な懐かしさもありつつ新しい響きもある。

日本の古典音楽の楽譜はおおよその骨格やニュアンスのアウトラインをメモ書きしたもので、口伝伝承を前提としたものだった。それは師匠の独自の書き方で弟子に伝えられ、流派内だけで流通していった。

「それに対し、五線譜は時間経過をX軸で、音の高さをY軸で表したもので曲の景色が誰にでも見られるものです」

現在の和楽器奏者の多くは、指や糸の番号や音名を基本とした、新旧さまざまな種類の縦書きの楽譜（盾譜）と西洋音楽の楽譜（五線譜）と両方に対応している。

*ヨナ抜き

ファとシを抜いた音階。明治時代、ドレミファソラドをヒフミヨイムナヤと表し、ヨとナがファとシにあたった。

和楽器と西洋楽器

松尾先生は現代音楽の作曲家だが、作品の半分以上は和楽器がらみだ。松本市音楽文化ホール専属オルガニストの依頼で尺八とパイプオルガンの二重奏曲を作曲したことが契機となったそう。いや、尺八の愛好家は世界に多くいるということだ。

「西洋の楽器は音程がしっかりしているところが魅力ですが、本来音というものは多彩です。多彩な表現をするには音は曲がつかずてもかすれてもいい。日本の楽器はさまざまな色彩を持っています」

たとえば三味線は「さわり」という雑音をあえてつけ、それが魅力だ。

「西洋音楽の常識で考えるとそれはむしろ改悪に相当します。ヨーロッパの楽器は多彩な倍音の一部を捨ててきたといえます」

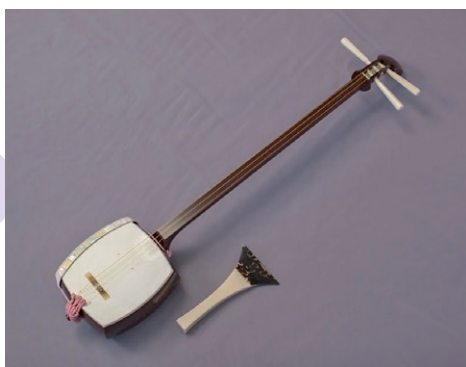
松尾先生はオーケストラや西洋楽器と共演する曲を作曲するときでも日

本の楽器の音律や音色を大切にします。

「その楽器が持っている独自の味わいを発揮できなければ意味がないし、それでもさまになる曲を書くのが作曲家の仕事だと思っています」

平成になって学校教育で和楽器に触れるようになったのは大きな転換だ。

「学校では上手に演奏しようと思うかもしれませんが、柔軟な思考で音楽づくりをしてみたいと思います。いじってみて、弾いてみて、自分の音楽がつくれたい。先生が弾けなくてもいいしよに楽しめばいいのではないのでしょうか」



三味線

この章の画像は、洗足学園大学伝統音楽デジタルライブラリー (<https://www.senzoku-online.jp/TMDL/j/aboutus.html>) による。楽器の説明もあり、演奏を聴くこともできる

伝統を受け継ぎ、新しい音楽を

日本最古の完成された音楽である雅楽。その雅楽を伝承する雅楽師でもあり作曲家でもある東儀秀樹さんに、この伝統音楽の魅力について語ってもらった。

ロックに夢中な青年が 雅楽の道に

東儀さんは子どものころから音楽好きの父母のもと、いつも音楽のある環境のなかで育った。幼児のころ、初めて手にしたハーモニ

カで、教わることもなくいきなり父親が聴いていたベートーベンの曲を吹いて驚かせたという。そんな優れた音楽の才能を持って生まれてきたが、特別な音楽教育は受けてなかった。

タイのインターナショナルスクールの幼稚園に通っていたころ友達の影響でビートルズを聴き、ギターに憧れた。

中学生になってからはロックにはまり、ギターを弾きはじめる。ギターだけでなく、ピアノもドラ

ムもベースも全部自分で習得した。そして高校を卒業するころ、音楽好きな東儀さんに母親が雅楽の道を勧めてくれた。東儀家は母親の家系で、奈良時代から一三〇〇年にわたって雅楽を伝えてきた「^が楽家」だ。

まだロックやジャズに夢中だったが、雅楽の道に進むことに抵抗はなかった。それは幼少期をタイで、中学時代をメキシコで暮らしたことも影響している。

「中学生のころ、近所のメキシコ人の日本に対する誤解をいちいちむきになって正していました」海外生活を経験して「日本人が

日本の文化を背負って立つ誇りや責任」を感じるようになった。

もう一つの理由は雅楽をやってもいないのに雅楽じゃなくてロックだというのは説得力がないとも思ったからだ。

そして宮内庁式部職楽部の楽生としての稽古が始まった。

雅楽の習得は楽器の音を再現しながら口伝だけで行う。記号化できない微妙な音程を正確に伝えていくのだ。

「やってみたら従順にそこにいる自分がいました」

一方、ギターへの思いは変わらず、ロックやジャズも演奏し続けた。宮内庁の楽生としては異端児だったが、雅楽以外の音楽を知っていたからこそ見える雅楽の面白さや深みが発見できた。

雅楽の楽器

雅楽演奏に指揮者はいない。いっしょに演奏する他の楽器の演奏者同士、息や間を感じ合うことが大切だ。そのため雅楽師は主になる管楽器のほか、弦楽器、打楽器そのほか舞や歌もマスターする。



©Ayako Yamamoto/ユニバーサルミュージック

とうぎ ひでき 東儀 秀樹さん 雅楽師

1959年東京生まれ。宮内庁式部職楽部在籍中は、宮中儀式や皇居において行われる雅楽演奏会などに出演するほか、海外での公演にも参加し、日本の伝統文化の紹介と国際親善の一翼を担ってきた。

1996年、アルバム「東儀秀樹」でデビュー。日本レコード大賞企画賞、ゴールドディスク大賞 純邦楽・アルバム・オブ・ザ・イヤー、2004年芸術選奨文部科学大臣新人賞等、受賞歴多数。

<https://www.togihideki.net>

<https://twitter.com/htogi999>

雅楽の管楽器は龍笛、笙、篳篥だ。笙はバイブオルガンのルーツともいわれ、和音を奏でる。吹いても吸っても音が出るという個人的な楽器で、誰もが聞いてハツとする音色を出す。東儀さんが楽生として選んだのは篳篥だ。篳篥は個性が強く、主旋律を背負える醍醐味があるからだ。笙と龍笛は「自分だったらこんな曲にこんなふうに合わせて」と結果を出したくて自分で習得した。

篳篥は音程が不安定につくられていて、音色は揺らいでいる。全部揺らいでいると変だが、真つすぐのところと揺らぐところを使い分ける。

「人が歌うときは自然とそれを使い分けています。ピアノのように真つすぐには歌っていません。人は気持ちよく素敵に聞こえる音を察知します。それと同じことができるように昔の人は楽器をつくってくれました。文字や記号で表せない感覚です。それはセンスで表します」

いちばんいい速さといちばんいい深さ。それはすべて同じでなく、楽器によって場所によって絶妙に使い分ける。

「それによつてすぐく心に伝わる音楽になります」

西洋の楽器も千年くらい前にはそういう不安定さのある楽器だったらしい。

「けれども不安定さが邪魔になりもつと正確に音程が出せる楽器にとつくりかえられてきました」

邦楽は基本的に五音階だが雅楽の基本は十二音階だ。この音階は西洋の音階と同じだが、二〇〇年前から東洋にあったものだ。だからオーケストラとでも合奏はできる。けれども雅楽の基本のピッチ(音の高さ)はA(ラ)が四三〇ヘルツで、西洋の楽器と十ヘルツ違う。そのままだと合わないが、東儀さんは確かな耳を頼みに、唇と息の力で少し音程を上げて吹いている。

雅楽の伝統と新しさ

自我を注ぎ込むこと」をよしとしなかった。

「だからいま現在も、継承の仕方でも習得の仕方でも千年前と同じです」

伝統を大事にするというのは昔の人が築き上げた完成度の高さをそのままに伝えることだが、それには技術も心も必要だ。

「古典雅楽を演奏する場合は雅やかでゆつたりとして博識な平安時代の貴族の気持ちになりたいと思っています」

平安時代の美学を知りたいと、いろいろな絵巻を見たり古文書を調べたり源氏物語を研究してみた。気高さや雅やかさというものを持った演奏になり、雅楽の歴史的な醍醐味が残せると思うからだ。

演奏会では「日本にはこんな雅やかなものがあつたんだ」と知ってもらいたいと、たびたび平安貴族の装束を身に着ける。

一方でそれがどんなに素晴しくても、堅苦しかったり近寄りがたかったりして遠ざけられるのはもったいない。東儀さんは「こんなこともできるんだ」とピアノやオーケストラ、ロックバンドなどと

篳篥が共存する曲をつくり、演奏して幅広く音楽を楽しんでいる。それを聴いて「こんな楽器があるんだ」「雅楽ってどういうものなのか聞いてみよう」という人も増えている。

演奏会は古典を大切に伝える一部と新しいスタイルの二部構成で行うことが多い。

海外生へのメッセージ

東儀さんは海外で暮らしていたとき、日本のことを聞かれることで「自分は日本の表札になつていて、外国の人は自分の背後の日本を吸い取ろうとしている」という感覚を持っていたと言う。

「日本人として自信を持つて胸を張り、日本の内側に目を向けてそれを相手に伝えるというような気持ちを持つてほしい。外国の人はそれを望んでいます。そして、それぞれの国や民族の個性と対等に接すること、それが国際人だと思えます」と海外生にメッセージをくれた。

ひと節の竹から笛ができるまで

和楽器はどのようにつくられるのだろうか。龍笛、能管、篠笛など日本全国の横笛をつくっている「笛工房和康」を訪ね、伝統工芸士の田中康友さんに話を聞いた。

ひとことで笛といっても、日本全国祭りの数だけ笛があると言っても過言ではない。同じ笛でも地域や流派などによって音階が微妙に違うそうだ。

素材づくり

笛づくりはまず竹の切り出しから始まる。篠笛は女竹から、龍笛は矢竹の太管や女竹（大名竹）から、能管は煤竹（長い年月をかけて黒くすすけた状態のもの）や真竹からつくられる。女竹は柔ら

かく、真竹は繊維の密度が濃く硬い。

十二月から二月にかけて、竹が地面から水を吸わなくなるころ切り出しに行く。一本にだいたい十五節あるが、そのなかで使えるのは一、二節。約二五〇〇節切り出すというからたいへんな数だ。

曲がつている竹は練炭で炙って柔らかくし、田中さん自作の燻木を使って矯正していく。火で炙ることによって油抜きと殺菌、そして目で見えなかった小さな割れや

傷を発見できる。

厳選した竹は節ごとに簾のようにつなげて外に干す。屋外で冬の冷たい風や夏の湿った空気に当て、天日干しと陰干しを繰り返し三年間過酷な環境のなかに置く。

その環境に耐えられない竹は割れてしまい半分以上は使えない。生き残った竹だけが笛になるのだ。さらにその竹に熱を当ててヒビを確認する。最終的に竹の材料になるのはわずか三分の一だ。

孔を彫る

竹の節間の長さや太さを見て笛の調子を決める。自然にできた竹なので、それぞれに歪みがあり、歪みを直す製管作業をして基本管をつくる。

次に音を決める。この工程がいちばんたいへんだ。まず唄口（息を当てる孔）をあけ指孔を一つあけては音の高さを確認する。古典調は三分損益という工法を使って音階をつくる。管の長さをその三分の一の長さだけ短くすると、最初の音より完全五度高い音が得られ、逆に三分の一の長さを足すと



上から能管 龍笛 古典調篠笛 洋楽調(ドレミ管)篠笛 笛工房和康製作



田中さん自作の燻木



たなか やすとも 田中 康友さん

東京都大田区認定伝統工芸士、笛師

若いころ東京都品川のはやしを師について学ぶ。ヤマハ発動機代理店に勤務し、仕事を通じて管楽器調律の技術を習得、日本全国の横笛を製作。

完全四度低い音が得られる。

現在はチューナーで音の高さを確認するが、チューナーがない時代は職人の耳で音の高さをはかっていた。だから個体差があった。

仮調律ができたなら、湿気を避けるため管の中に漆を塗って再調律、それを三回繰り返す。

「昔は中を削ってピッチをつくる技はなく孔をあけるだけでした。奏者は吹き方で調整していました。あやふやでそれが面白いのです。音自体に趣があり個性を大切にするのが古典です」

能管は「ノド」という部分に細

い竹材を挿入して音程をつぶす。それによって幻想的な音が生まれ、能舞台の雰囲気が一変する。

田中さんは十数年ほど前から洋楽調（ドレミ管）の篠笛をつくるようになった。平均律ドレミ音階の篠笛ができて、和楽器バンドが生まれ、いまやオーケストラにも使われている。

洋楽調の笛の孔をあけるときは自作のマスターを使って竹にだいたいの位置の印をつけていく。竹はそれぞれ内径も管の中の体積も違う。それを考慮して孔の位置をずらしてあけていく。それはまったくの勘だ。失敗したら捨てるしかない。

デジタルチューナーで音を確認し、微妙なピッチの違いは管の中をピンポイントで削って調律していく。

笛は吹き方によって音が上下するので、田中さんは吹く人に合わせて孔の位置を決める「マイ調律」を行っている。

仕上げ

調律が終わると孔をやすりで丸

く整える。「熟練が必要で最初はギザギザでした」

最後に外側を漆と顔料をまぜて塗っていく。そして籐とうかかを巻く。それはデザイン性だけでなく割れ防止にもなる。

龍笛も音のつくり方は篠笛と同じだ。龍笛と能管は管の内径が十三ミリくらいが適当なので、管の中に漆を塗り重ねて整えていく。幻想的な音や音量を出すためには厚みのある太い管である必要がある。

こうして現代の音づくりの技術と古典技術が使われた美しい笛が田中さんの腕でできあがる。

田中さんは日本和楽器普及協会の理事を務めている。会では日本の美しい伝統を守ろうと楽しいイベントも企画されている。一時帰国のときにでものぞいてみるといい思い出になるだろう。

● 笛工房和康 (wako)

<https://www.shinobunewwako.com>

● 一般社団法人 日本和楽器普及協会
<https://www.hougakusai.jp>

学校で日本文化を学ぶ

都立白鷗高等学校は一三三年の歴史がある伝統校だ。二〇〇五年、附属中学校も併設する都立初の中高一貫校になった。「伝統からグローバルな未来へ」をスローガンに、「日本の伝統・文化理解教育」「ダイバーシティ教育」、「課題探究型学習」の三つの柱を軸に教育活動に取り組んでいる。

和楽器を奏でる

「日本の伝統・文化理解教育」の一つとして「日本文化概論」の授業が行われている。高校二年生の一年間、週一回の授業のなかで、「日本生活史」を必修とし、「日本



「日本文化概論」の授業風景。壁には三味線がかけられている。



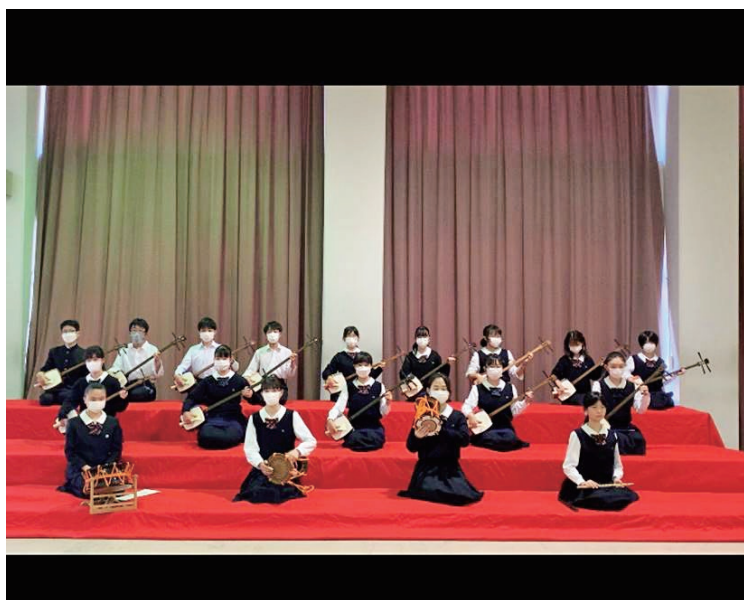
音楽史」(箏の演奏会を含む)、囲碁、将棋、華道、茶道、書道のなかから二つを選択する。そして、学期ごとに一種類ずつ、一年間で三種類を学ぶ。

箏の授業をのぞかせてもらった。授業は調弦から始まり、二人一組になって助け合いながら「もののけ姫」を練習していた。知ってい

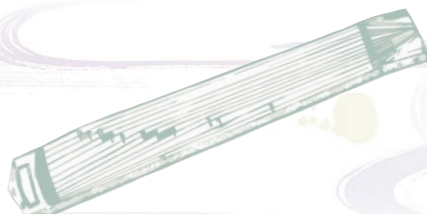
る曲を五線譜を見ながら無理なく楽しく弾いているように見受けられた。

箏だけでなく、中学の音楽の授業では全学年全員三味線を弾く。約二カ月間取り組み、学年ごとに『さくら』など聴きなれている曲を練習する。

音楽の伊藤椋平先生に三味線の

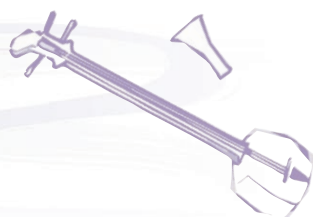


長唄三味線部の演奏会





左からWさん、Sさん、伊藤稔平先生



授業について聞いた。
「小さいときから楽器をやっている生徒は音を聞いてわかるので、どんどん進みます」とのことだが、到達目標は「三味線教室ではないので、友達と教え合って楽しみながら習得することです」と言う。

初めて扱う楽器だといった姿勢など細かいことを説明しがちだが、週に一回の授業なのでなるべく説明は短くし、弾く時間を長く取ろうと心がけているそうだ。
三味線はクラブもあり、活発に活動していて校外でも演奏する機会がある。

会がある。

学校で和楽器に取り組む困難の一つは、指導者の確保が難しいことだ。音楽の教員でも和楽器が弾ける人は少ない。もう一つは楽器のメンテナンスが必要なことだ。人数分の三味線のケアは手間がかかる。

「生徒からは、『他の学校では経験できないことができてよかった』という声が多いです。『三味線が弾ける』という自負を持って卒業できるのがいいそうです」

自然の音を感じる

実際に三味線の授業を三年間受けてきた生徒に感想を聞いた。

Wさんはオランダで、Sさんはブラジルで小学校時代を過ごした。

Wさんは「音楽室に入ったから三味線がずらっと並んでいて驚きました。『これやるの?』と。和楽器は扱いた方もわからないので戸惑いました」と言う。

Sさんは「六年生のときに帰国して通った小学校では毎年邦楽鑑賞会があってプロのかたが来てくれました。少しだけ楽器に触れさ

せてもらいました。だから三味線を見て戸惑いませんでした」

三味線を弾くのかとびっくりしたWさんだが、『さくら』とか単純な曲だったのでわりにすぐ弾けるようになりました」と言う。

楽譜は五線譜ではなく、押さえるところが数字で書いてあるものだ。慣れるまで難しい。

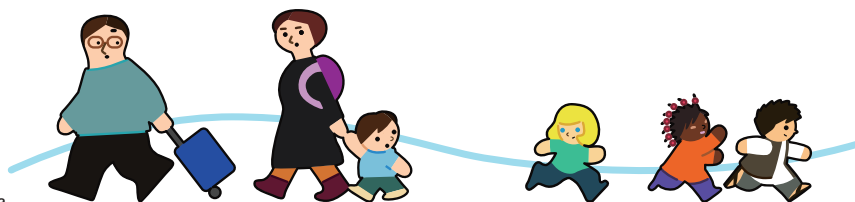
三味線の魅力について、Wさんは「竿さおの持ち方のわずかな角度の違いで音色が変わるんです。また、弦を押さえる位置をわずかに変えただけで音がきれいに出来ます。それを見つけないと魅力です」と言う。さらに和楽器は指揮者がいないので周りの人の動きをよく見て協調するようになったそうだ。

Sさんは「和楽器はきれいさもあり、風とか自然の音がより出せる楽器だと思います」と話してくれました。

~~*~*~*~*~*~*~*~*

長い年月、個性的で感性豊かな音色を表現してきた和楽器の世界は奥深い。ここでお伝えしたのはそのほんの一端だが、リンクを張ったサイトなどを参考に、さらに多彩な和楽器の音色に触れてほしい。

子どもの人格を大切にする教育を



Illustrated by
Reona Nishinaga

ハンブルクからロンドンへ。
航希と美晴は現地校での生活が始まった。学校に慣れるまでの葛藤はあったが、先入観を持たず、新しい文化を受け入れていく姿は親の目から見てもたくましかった。
そして次男歩睦が誕生する。五人家族になったイギリスでどんな出会いが待っているのだろうか。「宝物」のような生活を追う。

取材・文 高田 和子

航希が「クラスの一員」に

拓と直子は迷った末、航希と美晴をロンドンの現地校に入れることに決めた。公立校にもかかわらず学校は空きがないと入れない。航希は二週間待って希望の学校に入ることができたが、美晴は希望の学校に空きがなく航希とは違う学校に通うことになった。航希は日本では二年生だが、五歳から義務教育が始まるイギリスでは三年生だ。

「最初はいへんでした。言っていることがわからないし、言いたいことが言

えない。思うようにコミュニケーションが取れないもどかしさを抱えていました」と直子。

航希は日本人学校に行きたがった。

「ドイツの幼稚園のときのようにふたりとも慣れれば楽しくなると信じていました。だから『絶対に大丈夫だよ』と言いつたが、聞かせました」

一年間、直子は航希の宿題をずっと見ていた。たとえばローマ時代の勉強をしていたとき「材料は何でもいいので、その時代に住んでいた人の住居をつくってきなさい」というものがあつた。学校で勉強してきていることを確認しながら、段ボールや楊枝などを使って毎日少しずつふたりでつくり上げた。

「出来映えのよしあしでなく、子ども自身が授業を通して感じたこと、想像したことを自由に形にしていくなのだと気がつきました」

一年たち航希は「やっとクラスの一員になれた気がする。だからもう大丈夫」と言った。それまでも友達はいたが、自分分はクラスにいないような気がしていた。けれども四年生になり、先生が航希にもお手伝いを頼むようになったことにより、「みんなと同じだ」と感じたと言う。

美晴が劇で主役を

美晴は、半年間ずっと爪をかんでいた。指の皮がむけるくらいだった。

「美晴は自分の感情をあまり出しません。航希の宿題のフォローなどに手がかり、美晴のことはあまり気にかけられませんでした。いま思うと娘も環境が変わって相当ストレスがあつたのだろうと思います」と直子はふり返る。

八カ月後、航希と同じ学校に空きができ美晴は転校することができた。登校初日に「今日から来る子？」と寄ってきてくれた子が「いっしょに教室に行こう。私が連れていくから大丈夫よ」と言ってくれた。その日からその子は美晴の大親友だ。美晴は新しい学校に変わってとてもいきいきした。

学校では毎年クリスマスマスのころにキリスト誕生の劇をやる。二年生のとき、美晴は主役を演じた。マリア様に会うためにロバといっしょに旅をする助産師役だった。親友の母親が医者なので「助産師さんっぽくする小物」を貸してくれた。ナースの衣装を貸してくれる母親もいた。

少し引つ込み思案なところもあつた美晴だが、しっかり役をこなし、母親たち



World Book Day
航希はシャーロック・ホームズ、美晴は『マチルダは小さな大天才』のマチルダに扮して。

美晴が学校のクリスマス行事 (Nativity) で主役を演じた。



学校では 楽しいことがいっぱい

学校では楽しいことがいっぱいあったり待っていた。

航希は「World Book Day」が楽しかったという。自分が選んだ本に出てくるキャラクターに仮装して登校する日だ。まずひとりずつ何に仮装して、この本やキャラクターのどん

でよく子どもに読み聞かせをしていた。あるとき本の中の「みんな違ってみんないい。大事なのは君がここにいること」ということばを言ったら、「そのことばはいつも先生が言ってるよ」とふたりとも言う。直子は子どものなかにそれが根づいているのがうれしかった。

も「よくやったね」と言ってくれた。
「子どもの存在を認めて褒める文化だとすごく感じました。褒められて子どもたちの自己肯定感も育つと思いました」
直子は絵本が好き

などところが好きなどをクラスのみんなの前で話す。この日のためにつくられた特別なワークシートをしたり、担任の先生が本を読んでくれたり、一日中本のことにかわる日だ。

「僕は読書が好きなので、この日はいつも以上にリラックスして過ごせて、本の世界の楽しさにひたれる日でした」
五年生のときに行った二泊三日の宿泊

学習も楽しい思い出。

「たとえば二十メートルくらい高いところにあるブランコに乗りました。目隠しをして幅の狭い板の上を歩いていく体験レクリエーションではペアやチームになった友達とはしゃぎながら歩きました。そのときに池に落つちたのも、のちのちまでみんなの話の種です」

美晴はサマーフェイトが楽しかったそうだ。

「お母さんやお父さん、学校の先生たちが出しているブースにはゲームや小物が売られていたりしたので、ふだんは持ち歩かないお金を持って、仲のいい友達といっしょに回って遊べたのがよかったです」と言う。

ロンドンの暮らし

「街なかの広告はデザインもことばもシンプルでセンスがよく、インパクトが

あるものが多いのです。公園や庭園も素晴らしく、レンガの家並みはただ見たり散歩したりするだけでも心が落ち着きます」と拓。子どもたちは公園や芝のあるところで自由にサッカーができる。

夏休みとクリスマス休暇はヨーロッパでは三週間ぐらい休みを取って家族の時間を楽しむ人が多い。一家もよく旅行に行った。

子どもたちの世界も広がった。航希はトライアルを受けて見事リーグ戦のある地元サッカーチームの一員に。

「コーチの指導法はしっかりしていて、チームからは親は外からあれこれ口を出さないように、と言われました」と拓。

美晴はジャズダンスとバレエだ。

「バレエの先生は明るく、アドバイスをプラスのことばがけだったのでとても楽しかったです。バレエの素晴らしさも伝えてもらえるのでよいイメージを持って踊れました。曲にストーリーがあって、お芝居みたいでした」と美晴は言う。サッカーでもバレエでもうまくやることより楽しむことが大切なのだ。

父親の参加が多いのも日本と違うところだ。週末の習い事の送迎、頻繁に招待される誕生日会、自分の子どもたちの誕生日会など、父親も積極的に参加する。拓は学校の始業前に行われる子どもたちの学習発表会を出勤前に見ることもあった。

2018年10月、歩睦が生まれた年のハロウィン プランケットの上でうれしそうな歩睦とかぼちゃのランタンをつくる航希と美晴



次男歩睦の誕生

何より大きな出来事は次男歩睦の誕生だ。出産当日、ベテランの助産師がついていてくれたところだが、「まさにこれからが本番」というときに夕方五時で交代。

「バイバイ、がんばるのよ」と言い残して帰ってしまいました。日本との働き方の違いに笑ってしまいました」

直子は、産後二週間たったときに震えを覚えた。歯ががち鳴って高熱が出たのですぐ病院に行ったところ、四日間の入院生活を送ることになった。

「子どもたちはおむつをかえたりしてすぐよく弟の面倒を見てくれました。親や兄弟に頼れない海外での出産は家族の絆をより強く感じさせてくれます」

ママ友達は「放課後は美晴をうちで遊ばせるよ」と直子が歩睦と休めるように気遣ってくれた。ご飯をつくってきてくれた人もいた。航希の友達は歩睦を見つけるとすぐに寄ってきて「抱っこさせて！」と、とてもかわいがってくれた。

直子は朝と午後の送迎に合わせて歩睦を外に連れていき、景色を見せながらよく話しかけた。前から習っていたフラダ

ロックダウンでゴーストタウンに

直子の出産から二年目を迎えるころ新型コロナウイルスの感染が世界中に広まり、イギリスでも死者数が増えロックダウンになった。

「自分たちがいままで普通に生活していたところが車も人もいなくなりました。窓からの景色は静かというより怖いのです。ゴーストタウンってこういうことかと思いました」

「近所の人が亡くなったらしいよ」と聞くと「あのとき聞いた救急車のサイレンはその人だったのかな」と怖くなった。

学校もオンライン授業になった。課題を出されてそれをやるというもので、



2020年8月 ロードス島にて

一週間に一回か二回ぐらい Meet でつながって「みんな元気？」という具合だった。「やる子はやるけどやらない子はやらない。授業という感じはしませんでした」と直子。

その年の十二月、航希の受験のため家族で一時期帰国した。航希は無事第一志望の中学に合格。ところが今度は変異ウイルスがイギリスで広がり、またロックダウンに。一月中旬に学校再開のめどが立つのを待って直子と子どもたちはイギリスに帰った。

本帰国が決まっていたのでそれから引越準備をして三月に本帰国。コロナで予定が狂い、慌ただしい数カ月だった。二〇二一年四月、子どもたちにとって初めての日本での学校生活が始まった。新しい環境で葛藤はあったが、いまでは航希は「日本に帰ってきてよかったことは部活に出会えたこと」、美晴は「友達と自由に自転車で出かけるのがうれしい」と、日本の生活も楽しめるようになった。

長かった海外生活で、それぞれ自分たちの価値観や思考のものになるものをつくってきたのだろう。(終)

本欄では取材対象家族を募集しています。50 ページの E メールアドレスへお気軽にご連絡ください。



アーサー・マンデヴィルの 不合理な冒険

宮田珠己 著
網代幸介 画

大福書林
税込価格 2,750円

せっかくフルカラーで表紙を紹介できるので、装丁の美しい本を選んだ。だがその内容は……とびつきの奇書である。

どのくらい奇書かというと、まず孫悟空の物語が浮かんだほど。いまではドラゴンボールの方で有名だろうが、いうまでもなく孫悟空は中国三大奇書の一つといわれる『西遊記』に登場する。そもそもサルが雲に乗って空を飛ぶところからして「ナンジャコレ」だし、原典に近い本（たとえば福音館の古典童話シリーズ版）で読むと、おどろおどろしい怪異の連続だ。『西遊記』はRPGの原型かもしれないし、孫悟空は『スターウォーズ』のチューバッカにもインスピレーションを与えたかもしれない。

『西遊記』は唐（中国）の名僧・三蔵法師の一行が天竺（インド）を目

指す文字通り「西への旅行記」だが、

逆にヨーロッパから東方を目指した旅行記もある。いずれも眉にたつぷ

り唾をつけて聞くべき人づての風聞や噂の上に願望を込めた空想を塗り

こんで、嘘八百で焼き固めたようなものである。そのなかで日本人にな

じみ深いのはマルコ・ポーロの『東方見聞録』だろう。そう、チパンゲ（ジ

パンゲともいう）が黄金の国として登場するやつだ。日本人が読むと噴

飯物だが、いつの世にもフエイクニユースに踊りたがる人はいるらしい

このチパンゲに憧れて船出した西洋人は少なくないと伝えられている。

ただし事実とは小説よりも奇なるもので、ホメロスの叙事詩を真実だ

と思ひ込んで一生を賭け、ついにトロイの遺跡を発掘したシュリーマン

の例もあるから、チパンゲが日本海溝の奥深いあたりに沈んでいても不

思議ではないとさえ思える。

さて本筋である。プレスター・ジョンという名前に聞き覚えはあるだろうか。ローマから見て東の果てにキリスト教の王国を立てたとされ、中世の西洋で憧憬と崇拜を集めた伝説上の人物だ。しかし本書の主人公アーサーは、この王国が実在しないと確信している。アーサーの父ジョンが王国に至る道筋を記した旅行記を出版しているのだが、「父がオリエント世界を旅していたとするまさにその期間中に、このわたしがイングラントで生まれ、かの地で両親に育てられていたから」である。しかしその旅行記がこともあろうに時の教皇の目に止まり、アーサーはふたりの同行者と共にプレスター・ジョンへ親書を届けるよう命じられてしまう。この一冊はアーサーによる東方旅行記という体裁をとっているが、そもそもが偽書をガイドブックにした幻想旅行記である。しかも著者は現代日本の作家だから、古今東西の奇書のエッセンスがてんこ盛り、羊のような実なる木や犬頭人、一角獣、セイレーンを思わせるような少女などが次々に登場して、何でもありのチャンプルーか閻魔鍋か、そんな感じに仕上がっている。ご丁寧に巻末には参考文献リストが載っている（ここだけは現実＝日本で実際に出版されている本ばかりで、読書ガイドにもなる）、驚くことにジョン・マデヴィル著『東方旅行記』（平凡社東洋文庫）というのもある。つまり本書は実在する偽書の二次創作物でもあるのだ。本書の終着点もまた日本だが、言語オタクである僕にとつてはプレスター・ジョンの名に引かれたことは遊びのオチが面白かった。

ちよつと真面目な話をする、ストリーアの底流には「父ジョンはなぜ偽書を書いたのか」というアーサーの問と、意外なほど感動的な答がある。そして東洋と西洋とが隔絶していた時代に未知の世界をどのようにイメージしていたのか、人間の想像力のたくましさ舌を巻く。異文化理解とはかくも大胆な冒険なのだ。不埒なことに読みながら時折、学校で習った地理や歴史を思い浮かべたし、その度に頭の中がトリプルコック・フォーティーンフォーティのような状態になった。でも本を置けばとりあえず着地できるのが救いだ。お勉強の合間に、あるいは一日のお仕事のあとに、すべてを忘れてリラックスするために最適な一冊。読み終わったら、表紙と同じ画家による「絵巻物」が添えられているので、それを眺めながら時間が過ぎるのに任せよう。

（選・評＝古家 淳）

女子

育英西中学校・高等学校

奈良の北西部、大阪難波から電車で約三十分の丘陵地に育英西中学校・高等学校はある。安全で自然に恵まれた環境だ。

母体の奈良育英学園は、一九一六年に設立された伝統校である。そして八三年、「次代を担う女性の育成」を掲げて、女子の中高一貫校が奈良市の西の郊外に誕生した。昨今、少子化で生徒募集に苦勞している女子校も多いが、この学校は定員を大幅に上回る生徒が集まっている。奈良で唯一の中高

一貫の女子校とはいえ、大阪の名門校も通学圏内にたくさんあるので、それらに伍する人気校であることがわかる。

関西の各大学との高大接続／連携プログラム等で評価されるだけでなく、中学校が「国際バカロレア（IB）MYP認定校」であることや、高校が文部科学省の「地域協働事業（グローバル型）」の指定校となっている点でも注目されている。

自分で判断し 行動できるように

校長の北谷成人先生は、アメリカ西海岸に一九九一年に開校した西大和学園カリフォルニア校の設立スタッフだった。九五年からの四年間は校長を務め、国内の帰国生受け入れ校にも顔が知られている。

「お預かりした生徒は日本各地に帰りますので、受け入れ校はぜひぶん回らせていただきました。」



授業風景

親御さんのご苦労や本人の不安はよくわかっていきますから。

八年前にこの学校を任されたとき、経済的にも恵まれた家庭の生徒が多く、穏やかで素直な子がそろっていると感じました。ただその反面、自分の判断や決断を迫られたときに人任せにしてしまう側面もあるように感じられました。そこで「自立女子」を掲げ、自分で判断し行動できるように指導し

ています。

外国育ちの子は自分の判断や決断をする経験を積んでいますし、ものの考え方がしっかりしている子が多いですよ。グローバルな教育には、いろんな価値観に触れることが不可欠ですから、学校の多様化を推進するためにも、帰国生は大歓迎です」

日本の学校の同調圧力が問題となることもあるが、女子校ではどうなのだろうか。

「説明会などで『いじめはないか?』といった質問を受ける時代もありましたが、いまはそういう質問も出ません。特に女子校の生徒は共感を大切にする子が多いように思います。また本校でも協働学習を大事にして、いっしょにやっていく気持ちを育んでいます」とのこと。

国際バカロレア教育を 全員に

二〇一六年、学園創立百周年を機に、従来の教育理念「育英誓願」に加えて、二十一世紀型教育を根づかせていくことを打ち出した。「要は探究的な学びを推進する

所在地：〒631-0074 奈良市三松4-637-1

TEL：0742-47-0688(代)

FAX：0742-47-2689

URL：<https://www.ikuei.ed.jp/ikunishi>

交通：近鉄奈良線「富雄」駅より徒歩20分

またはバス 7分

生徒数：中=240人 高=500人

帰国生数：中=5人 高=3人

教職員数：専任 51人（うち外国人1人）

非常勤17人

帰国生入試の出願資格：

海外の学校に2年以上在籍し、帰国後2年以内の者



授業風景

ことです。国際バカロレアでいえば、大学進学を考えてDPだけを行う高校は多いのですが、英語でそのレベルの内容をこなすのは難しい。結局、ごく一部の生徒を対象にした特別コースだけで実施している学校がほとんどです。

ところがMYPは、基本的に母国語つまり日本語でできますし、全校生徒で取り組まなければなりません。日本の学校で英語を使っていることを高めることは至難の業ですが、まずは中学段階で日本語で学びながら思考力を鍛え上げ、次第に英語の力も身につけていくという堅実な方法をとっています。

「MYP一期生は今年、高校二年になるが、海外の大学に合格できそうなお子もいるという。高大接続／連携プログラムでも、MYPから継続する教育内容に期待が集まっている。」

高校になると約半数が「特設コースⅠ類」（関西大学・近畿大学など私立大学の志望者）と「特設コースⅡ類」（国公立大学の志望者）に所属する。いずれもたんなる推薦入学ということではなくて、教育内容まで大学と連携・連動しているようだ。また残りの半数は、二〇〇八年から始まった「立命館コース」に所属し、ほとんどが立命館系列の大学に推薦入学する。

「大学に行くために勉強をするのではないといえ、保護者には一定の進路保証が必要です。最近では海外の大学への進学希望もありますから、海外の四つの大学との

定期試験が ほとんどない学校

連携も始めました。うちの学校の勉強をしつかりやれば、海外の大学も目指せますよ、ということですよ」と北谷校長は話す。

ミャンマーのヤンゴンで三年間暮らしたことがある中一の生徒に話を聞いた。

「日本人学校には小五の最後まで通いました。帰国して大阪市に住んでいますが、一時間半かけて通っています。この学校を選んだのは、立命館コースが魅力的だったからです。日本人学校ではいろいろ不自由なことがあって、日本の学校と同じように勉強できないと感じていましたので、知識だけで比べたり成績をつけたりする学校ではないところに通いたいと思っていました」

二・三人、あるいは五・六人の班単位で学ぶことが多いので、苦手な科目でも基本的に楽しめているという。

「国際バカロレアはグループ学習が中心で、課題をこなして成績がつくので安心です。ここの生徒は大人しい人が多いように感じます。私は賑やかな方ですけど」と

笑う

海外で身につけたコミュニケーション力があるからこそ、自然に溶け込めているのだろう。

最近、文部科学省では中学・高校の定期考査を減らしていくよう推奨している。その意味でも、この学校は先行している。

入試広報担当の霜野弘宜先生は、数学科・情報科の教師だ。「英語はまったくできません」と言いながら、海外の大学との連携もまとめ上げていることに驚かされた。

「うちの教員は、新しいことに挑戦することをあきらめないんです」と霜野先生はいう。

大阪市からも多くの生徒がこの学校を志望する理由の一つは、そんな先生たちの「士気の高さ」なのだろう。（取材：文 小山和智）



インタビューに答えてくれた帰国生

Davos Next 2022では、世界中の日本人の子どもたちをつないで、世界的な課題について共に考えるグループワークが予定されています。

今回は、そのグループワークを支える教育工学者の山本良太さんへのインタビューです。Davos Nextの理念に共感し、その後の展開まで見据えている山本さん。子どもたちに「ポジティブにお世話になること」の大切さについて語ります。
(只木良枝)

JOES Davos Next 2022

~ GLOBAL STUDENT SUMMIT ~

Davos Next 2022に向けて **4**



第4回 JOES Davos Nextを語る

東京大学大学院情報学環 特任助教

山本良太さん

Davos Nextの構想を知って、 ぜひ読んでみたいが、

これを実現するのは簡単ではないな、と思いました。まず自分が海外で生活している子どもの状況をイメージできなかったし、違う環境にいる子が同じテーマで話して噛み合うのかと。そもそも子どもたち自身に、自分の住んでいる国の環境や課題をきちんと説明できる土台があるのだろうかとも考えました。

Davos Nextのとても大きな構想を、どう具体化して落とし込んでいくか。ディスカッションの間の立て方や子どもたちへのアプロ

ーチの方法、学びを深めるためのツールの整備など、いわば詳細設計が、僕の役目だと思っています。「なぜ学ぶのか」の意味づけと、目の前の学習に取り組む意欲を喚起する仕組みがあれば、子どもたちの学びへのポテンシャルはまったく違ってきます。じつは、僕は勉強が大嫌いでした。「なんで日本人ばかりの教室で英語を話さな」といけないんだ」とか、思っていました。かつて勉強嫌いだったからこそ、学びのデザインの重要性がわかるんですよ。

Davos Nextには技術面の課題もあります。世界各国でインターネット事情が異なるなか、どんなツールを使えばディスカッションの場が実現するのか。いまその最適な方法を探っているところです。

開催まで あと半年に迫りました。

ここは「大丈夫」と言わないといけませんね(笑)。イベントの成功はもちろん重要ですが、僕は、それは出発点だと思っています。

今回のディスカッションが、自分が住んでいる場所や世界への理解を深める動機づけになってほしい。ですから、参加した子どもたちが家庭

に持ち帰り、家族や身近な現地の人との対話のきっかけにできるような「しかけ」も考えています。

世界中の子どもたちに、 ひとことお願いします。

僕は子どものころ、家庭の事情で周囲の人にとっても助けられて育ったんです。それと、学生時代に研究室のプロジェクトでフィリピンの情報教育支援にかかわったとき、「教えてあげる」という気持ちで行ってみたものの、現地の人に逆にお世話になるばかりで結局あまり役に立たなかったという経験があります。「お世話になったのにすみません、次はもっとブラッシュアップしていきます」と、また半年後に行きました。それがずっと続いて、いまでも現地の人たちとかかわりながら活動しています。

日本では自己責任とか迷惑をかけるないようにとかいわれますが、逆にポジティブにお世話になってほしい。するとこちらも、お返ししたくなるでしょう。そのプロセスで、相手のことがどんどん理解できるようになっていきます。そうやってたくさんの人とかかわって、自分の生活を豊かにしていただければいいですね。



とうきょうと

東京都

あいうえお順で紹介していきます。

と どう ふ けん
1都1道2府43県
～め・ぐ・り～

かんとうちほう にほん しゅと ぎょうせいきかん だいぎぎょう
関東地方にあり、日本の首都。行政機関や大企業
が集中し、政治や経済のほか、文化・教育学術面
においても日本の中枢をなす国際的大都市です。都の
鳥は「ユリカモメ」、都の花は「ソメイヨシノ」、
都庁所在地は新宿区。

なんで、「東京」っていうの？

ひがし みやこ みやこ
「東の京（都）」という意味。江戸時代後期の
のうかく けいざいがくしゃ さとうのぶひろ にほん せかい
農学・経済学者の佐藤信淵が「日本が世界に
進出するためには江戸を東京、大阪を西京とし、
京都と合わせて三京にすべし」と説いたことが
背景にあるともいわれています。

さて、東京都の形は何に見えるかな？



おおぞら
大空を舞うワシ？



クイズ

- 次の施設のなかで、本当に東京都内にあるものはどれでしょう？
 A 東京ディズニーランド B 東京ドイツ村 C 東京タワー
- 「銀ブラ」ということばがあります。その意味は何でしょう？
 A 銀座でブラブラ散歩する B 銀座でブラックコーヒーを飲む C 銀のブラウスを着る

*クイズの答えは奥付(P.50)をご覧ください。



東京の名物料理

を紹介するよ～

べったら漬

ポリポリとした食感が心地よく、
箸が止まらなくなるかも。



べったら漬とは、大根の皮を厚めにむき、塩押しした大根を、砂糖、米、米麴で本漬けたもの。表面についた甘酒の麴がべとべとしていることからこの名がつけました。菌ざわりのよさと甘く淡泊な味が特徴で、食べる際には大きめに切るのが一般的です。その歴史は古く、江戸時代の宝田恵比寿神社例祭の市に廻ります。現在も宝田神社を中心とした日本橋付近では「べったら市」が開かれ、べったら漬が売られます。



ハイブリッド21世紀型学習

オンラインと通学

新時代の学習コミュニティ

グローバル・アドミSSIONの時代

夏期講習
受付中

帰国生/国際生向け 中学入試対策コース

三田国際学園・広尾学園・広尾学園
小石川・渋谷渋谷・渋谷幕張・慶應
湘南藤沢・海城・学芸大国際・かえつ
有明・頌栄女子学院・洗足学園など

帰国生 高校入試対策コース

国際基督教大学高校・学芸大国際・
早稲田実業・早稲田大学高等学院・
慶應義塾・慶應湘南藤沢・玉川学園・
成蹊・都立国際など

帰国生大学入試直前対策コース

早稲田大学文系・早稲田大学理系・
早稲田政経グローバル入試・早稲田
国際教養・慶應帰国生入試・慶應法
FIT入試・上智大学学科別対策など

2022年度合格実績 (一部)

中学受験

三田国際学園中

国際生入試+英語入試 合格者18名！

大学受験

東京大学帰国生入試 合格者2名！

(国立コース合格率100%)

中学受験対策

夏期集中特別講座

- 1) 三田国際・広尾学園 国際生入試対策 (GLICC桜新町教室)
・ Reading+Listening+Writing+Grammar+Math/Reasoning
- 2) フィクションリーディング&ライティング (オンライン)
・ 7月第1週から全6週 8月の講座終了後から8月末まで課題添削つき

高校受験

英数国3教科対策

- 1) 難関高校受験英語・TOEFL
- 2) 難関高校受験数学・広尾学園 Math
- 3) 帰国生国語・日本語作文対策

帰国生

大学受験対策コース

- 1) 志望理由書サポート+文系小論文/理系数学/早稲田国教CW対策
- 2) G11生対象 TOEFL対策/基礎小論文/数学

合格者の声 東京大学 文科2類 合格

7年間米国に住んでいた私にとって一番の壁は日本語小論文でした。オンラインで国立大学の小論文対策を行っている塾を調べている時に、GLICCに出会いました。毎回の授業は、先生と対話しながら進められるのですが、この対話によって自分とは異なる考え方に気づき、よりレベルの高い小論文にするための視点が得られました。また、別の国で過ごしていた受験生と一緒に学んだことも、自分が暮らした国についてよりよく知る機会となりました。お互いが書いたものを批評し合う「ピアレビュー」では、相手の書いたものを指摘するスキルを上げることを通じて、結果的に自分の表現力を向上させることにつながったように感じます。さらに、GLICCの先生は親身になって受験の悩み事や話を聞いてくださいました。何か心配事を抱えていた際に先生に連絡すると、すぐにズームを開いてくださり、相談にのってくださいました。このようなサポートは、他では得られないものだと思います。

海外からも、首都圏の難関校にチャレンジできる 早稲田アカデミー オンライン校

最高レベルの
志望校別対策



双方向Web授業

「海外からも、首都圏の難関校受験にチャレンジしたい…」

詳細・お申込はこちら

そんな方に向けた待望のサービスをスタートします。

これまでに培った「双方向Web授業」の経験とノウハウを結集して、
対面と変わらぬ志望校別対策授業をご自宅で。

講座受講生滞在国(例)
アメリカ・オーストラリア・シンガポール・タイ・中国・マレーシア・ドイツ



早稲田アカデミー オンライン校のココがすごい！

特長 1

早稲アカの
「志望校別対策コース」を、
海外からも
「対面と同じように受講」できる

特長 2

熱のこもった
“双方向Web授業”だからこそ
実現できる臨場感

特長 3

模試も、宿題も、
プリントも、質問も……
対面と変わらぬサポートを
新システムで実現

小1～高3 生徒・保護者様

2022 Web入試報告会

入試の概況・科目分析をWebオンデマンドで、
いつでも、どこでも動画視聴できます。

無料

帰国生入試分析

公開中
(5/31まで)

オンラインでの動画配信となります。
視聴には事前のお申し込みが必要です。

詳細・お申込は
こちら



小1～中3 生徒・保護者様

オンライン 海外受験講演会

無料

詳細・お申込は
こちら

6/6日～7/4日 配信

海外生・帰国生の受験までの流れや、海外入試・オンライン入試実施校の情報、海外滞在中に準備しておくべきことなどについて、お伝え致します。



小6・中3 生徒対象

プレ夏期講習会

オンライン受講可

無料

詳細・お申込は
こちら

一時帰国・本帰国の受験生へ 志望校合格への土台をつくります

7/4日～15日の平日(全10日間) 【3科目】10:00～15:00(昼休憩1時間)

科目／【小6】国語・算数・英語 【中3】英語・数学・国語 校舎／早稲田アカデミーExiV渋谷校



海外生・帰国生教育 法人向けサービス

早稲田アカデミーは、海外在住で帰国後に日本の中学校・高校へ進学予定のお子様を積極的にサポートしています。

海外への赴任前・赴任中・帰国後のお子様の教育に関して、
人事ご担当者様に代わってバックアップ致します。

※入会費・年会費は一切かかりません。

詳しくはホームページをご確認ください。

詳細はこちら



2022年 帰国生合格実績 Webで公開中！



早稲田アカデミー

お申し込み・お問い合わせ・資料請求はお気軽にどうぞ。

お電話で 国際部 +81-3-5954-1161

パソコン・携帯で 早稲田アカデミー 帰国生

検索

トフルゼミナール《帰国生対策プログラム》 だからできる充実の 《帰国生サポート》

tofl.jp/kikoku

帰国生に人気の国際系!!

上智大学国際教養学部合格

4月期公募・書類 **102名** (定員100名中)

早稲田大学国際教養学部合格

4月期AO入試 **61名** (定員100名中)

トフルゼミナールだからできる国内進学にも海外留学にも対応できる帰国生コースのバリエーション!!

Webによる海外在住&国内学習。トータルサポート(オンライン)で帰国生の受験の不安を解消!!

大学受験対策コース 夏期講習会

Online個別相談受付中

海外帰国生・一時帰国生対象

*Skype/Google HangoutなどOnlineテレビ電話で対応できます。

通学コース

オンライン・コース

進学先

中途帰国生

- 帰国生英語対策コース
- 英語資格で狙う総合型選抜(AO・推薦)
- 上智・早稲田国際教養入試対策
- 一般選抜対策

- ◆ 帰国生入試対策オンライン
- ◆ 上智・早稲田国際教養入試対策
- ◆ 総合型選抜(AO・推薦)対策

一時帰国生

- 一時帰国生のTOEFL・SAT Test対策
- 帰国生小論文・現代文
- 基礎文法講座
- TOEFL Test対策シリーズ
- SAT Test対策シリーズ(標準・基礎)
- TOEFL Test対策Prep.シリーズ他

- ◆ 一時帰国生対象オンライン
- ▽ TOEFL Test対策・SAT Test対策
- ▽ 小論文他講座多数
- ◆ 上智・早稲田国際教養入試対策
- ◆ 総合型選抜(AO・推薦)対策

帰国生(G12生・卒業生)

- 帰国生大学受験課程
- ▽ 早慶上智▽ハイレベル私大
- ▽ 東大・一橋大・東京外大他
- 上智・早稲田国際教養入試対策
- 国際基督教大(ICU)対策
- 国際教養大対策他

- ◆ 一時帰国生対象オンライン
- ▽ TOEFL Test対策・SAT Test対策
- ▽ 小論文他講座多数
- ◆ 上智・早稲田国際教養入試対策
- ◆ 総合型選抜(AO・推薦)対策

- トップスクール進学課程
- トップスクール編入プログラム
- 海外大学進学課程
- 提携大学進学課程

- ◆ 海外トップスクール進学プログラム
- ◆ 海外提携大学進学プログラム

国内大学

上智大学
慶應義塾大学
早稲田大学
MARCH・関関同立
他英語難関私大
東大・一橋大・東京外大
他国立大学

国際系大学

上智国際教養学部
早稲田国際教養学部
国際基督教大学
国際教養大学他

海外大学

海外のトップスクール
海外の2年制・4年制大学
海外の提携大学

帰国までをつなぐ...
現地で入試対策

グローバルアドミッション・コース

海外現地校に在籍される生徒が日本の帰国入試を受験される場合、効率的な学習と情報が“鍵”となります。グローバルアドミッション・コースは、トフルゼミナールのカウンセラーからの定期的なサポートと進路指導により、現地にいながら日本国内に在住する学生と同等の受験対策を可能としたオンラインコースです。定員を10名に限定し合格に向け徹底したサポートを実施します。

カウンセラー
進路
コーチング

プロ講師
学習
コーチング

トフルゼミナール海外帰国生教育センター

東京本校(高田馬場校舎) ◆ TEL. 03-3205-8015

池袋校 ☎ 03-5960-2712
渋谷校 ☎ 03-5766-0652
四谷校 ☎ 03-5363-0352
立川校 ☎ 042-521-3771
調布校 ☎ 042-426-3812

町田校 ☎ 042-709-5822
横浜校 ☎ 045-661-0879
藤沢校 ☎ 0466-50-7740
大宮校 ☎ 048-643-6268
船橋校 ☎ 047-422-9635

仙台校 ☎ 022-395-9559
名古屋校 ☎ 052-251-9055
大阪校 ☎ 06-6315-4833
神戸校 ☎ 078-265-6561
京都校 ☎ 075-253-6976
福岡校 ☎ 092-406-2478

帰国生対策のご相談は

TEL. +81-3-3205-8015
FAX. +81-3-3232-1959
[メール] kikoku@tsnet.co.jp

[分室] 札幌・浜松・金沢
奈良・広島・熊本

論理的思考力を伸ばし、真の学力を身につける

改革に積極的な伝統校

和洋九段女子中学校高等学校（東京都千代田区）は、今年創立125周年を迎える伝統校だ。ICTや実践的な英語力、アクティブラーニングで養う問題解決能力やプレゼンテーション力を駆使し、どんなに困難な世の中も渡っていけるような女性の育成を目指している。2017年度にはグローバルクラスを設置するなど、学校

改革に力を入れている。なかでも、PBL（Problem Based Learning＝問題解決型学習）型授業を全教科・全学年で採用しているのが特徴だ。PBLとは、問題提起型の授業のこと。教師が投げ掛けるトリガークエスト（興味、関心を引き出すきっかけとなる問いかけ）が生徒の知的好奇心を刺激している。

例えば、歴史の授業では「ヨーロッパで起こったあらゆる時代のあらゆる戦争に共通しているものは何か」という問いかけを行う。生徒たちは話し合って宗教や欲望、ブライドなど様々な答えを出し、単純な領土争いだけ

ではないということ学ぶ。対話型の授業を通して、疑問→仮説→検証→結論という論理的思考力を身につけていく。

PBLに取り組む学校は多数あるが、多くは探求学習などの特別な授業に限られている。その中で和洋九段女子中高では、PBLをすべての教科で実施している。すべての授業が受け身ではなく、能動的に学ぶことで、真の学力が身につけていく。

学校行事や

キャリア教育にもPBL

また、PBLの手法は授業に限らず、学校行事やキャリア教育にも活用されている。携帯電話の使用に関する問題点や改善策を考える学習を全校一斉で行ったり、文化祭の実行委員会の話し合いにPBLを用いたりしている。生徒が自分たちで問題を設定し、話し合っ解決策を決めるので、自己抑制が効き、学校運営を円滑に行うことができるという。

キャリア教育においても、中1で外国の大使館への取材を行う。アポインメントも生徒自身が取り、「SDGs

（持続可能な開発目標）」をテーマとした自国での取り組みなどをインタビューするという。中2では、都心の九段下にある立地を生かし、学校近隣の企業に向いて様々なテーマで取材を行う。さらに、調査結果についてディスカッションを重ね、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。中3でのシンガポールへの修学旅行や、高1で実施する農業体験においても、日頃のPBL活動の成果が遺憾なく発揮されている。

オンライン英語学習と 海外大学指定校推薦制度で 生徒の可能性を広げる

一方、19年度からはUPAA（海外協定大学推薦制度）に加盟し、マンチェスター大学をはじめとする欧米20の大学へ進学できるような体制を整えた。各大学に外国人枠で入学でき、日本国内の大学との併願も可能というメリットがあり、海外大学への進学がより身近になった。

さらに、大学での利用度が高い英語の「読む・聞く」に特化したeラーニングシステム「College Pathway」を

全クラスに導入。自学自習で英語を学ぶ力を強化するのが狙いだ。

様々な改革により、活気のある学校へと進化した。今後も世界を見据えた教育を実践していく。



和洋九段女子中学校

お問い合わせ

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-12-12

TEL.03-3262-4161 (代表)

FAX.03-3262-4160

www.wayokudan.ed.jp

詳しくは公式HPをご覧ください。

海外生用のオンライン入試あります



Connect With the World For a Brighter Future



1940年に創立されたときから
帰国生と共に歩んでまいりました。



啓明学園 幼稚園 | 初等学校
中学校 | 高等学校

Keimei Gakuen Kindergarten, Elementary, Junior & Senior High School

国際編入試験の詳細はホームページをご覧ください。
募集要項, 願書, 提出書類は
ダウンロードできます。



東京都昭島市拝島町5-11-15 Tel. 042-541-1003(代表) Mail. kokusai_info@keimei.ac.jp

啓明学園

編入時期、編入学年に関するご相談を随時受け付けております。いつでもご相談ください。

R 立命館宇治中学校・高等学校

RITSUMEIKAN



IBDP認定校

文部科学省

「WWL拠点校」

中学

- 特徴 1 IBにつながる**IPコース**
- 特徴 2 グレード別授業や海外研修を通して
生きた英語を修得する**ICコース**
- 特徴 3 WOWプログラムなど多彩な活動を
通し探究力や豊かな人間性を育成

高校

- 特徴 1 グレード別英語授業と
帰国生習熟授業のある**IGコース**
- 特徴 2 1年間の留学と
帰国後イマージョン授業を受講する**IMコース**
- 特徴 3 日本の高校の課程と
IBディプロマ課程の両立ができる**IBコース**

高校生徒
寮完備

オープンキャンパス

6月18日(土)開催

中高編入学試験(9月入学)

6月25日(土)実施

〒611-0031

京都府宇治市広野町八軒屋谷33番1

TEL:0774-41-3000

✉uji-returnee@ujc.ritsumei.ac.jp



先生とわたしの距離が
センチメートルのオンライン授業って?

文
教
学
院

我が子のように
向き合い続けて
祝 開校 40 年

いっしょに、がんばろうね

愛のある指導

文教学院のネット塾

✓ ライフスタイルに合わせて

世界中どこにいても、あなたの生活時間に
合わせて授業スケジュールを組めます。

✓ 安心・気軽

家庭教師のように家族が気を使わなくても大丈夫!
塾のような、行き帰りの心配もありません!

✓ Face to Face

顔をみながら紙とペンで授業を進めるので、
大事なところが記憶に残ります。



生徒さんは自分の
ノートに書き込みます

生徒さんのノート

講師のノート

海外日本人学校・日本語補習校宿題コース好評開講中!

なんとこちらは、兄弟姉妹は**授業料無料**

兄弟
姉妹は

入会金

無料!

小・中・高対応

文
教
学
院

東京都世田谷区3-12-11

☎03-5799-6031

文教学院ウェブサイト ▶ <http://www.jyuku.info/>

お問い合わせ先 ▶ info@jyuku.info

Facebook ▶ <https://www.facebook.com/setagaya.bunkyo.gakuin>

文教学院 塾

検索



クアラルンプール 日本人学校



The Japanese School of Kuala Lumpur

URL <http://www.jskl.edu.my>

児童生徒数 幼=47人 小=391人 中=86人

(2022年2月1日現在)



校舎

アジア有数の国際・近代都市クアラルンプール

マレーシアの首都クアラルンプールは、さまざまな国籍の人々が行き交い、多様な言語が飛び交うアジア有数の国際都市である。さらに近年は高速道路や市内鉄道、モノレールなどのインフラ開発が進み、アジア有数の近代都市として成長を続けている。市内の中心部には天空高くそびえ建つツインタワーをはじめとした高層ビル群と、およそ一〇〇年前に建てられたイギリス統治下時代の歴史的・文化的な建物が共存して独特の景観を形成している。今年四十周年を迎える「ルックイースト政策（東方政策）」によってこれまでに日本に派遣されたマレーシア人留学生や研修生は二万六〇〇〇人を超え、その人材がマレーシアの産業や社会の発展を支えるなど日本との結びつきも深い。

国際性を備えた児童生徒の育成

本校は二〇二一年に創立五十五周年を迎えた歴史ある学校である。開校は一九六六年、在マレーシア日本国大使館附属小学校として児童十四人でスタートした。マレーシアの発展と共に九七年には幼稚園・小学部・中学部の数がピークを迎え、一四〇〇人を超える子どもたちが通うようになった。児童生徒数増加に伴い移設した現在のスパン校舎は広大な敷地を持ち、小学部・中学部それぞれにプール・体育館・運動場を備えるなど世界有数の恵まれた環境にある。

本校の教育目標「たくましくからだ、ゆたかな心、優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成」を目指し、近年は「ICT教育の充実」「英語教育の充実」「心の教



民族衣装の日



—カンボンホームステイ—



幼稚園 中学生とのZoom交流会

小学部3年 理科



中学部3年 盆踊り



小学部5年 国際交流会

小学部1年 EC授業風景



子どもたちから

国交交流会でマレーシアの三年生に日本の文化を教えました。(小3)

たくさんの県や国から来ている子がいて、

たくさんの文化を知ることができています。(小6)

全国各地から集まった個性豊かな生徒で溢れる楽しい学校です。(中2)

育の充実」の三本柱を重点目標に掲げ研究を重ねながら教育活動を展開している。「ICT教育の充実」では、学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を展開するためのツールとしてiPad二四〇台とChromebook一五〇台、また各教室に大型テレビを整備して、授業や国際交流会などで積極的に活用している。「英語教育の充実」では、全学年において「English Communication」、EC学習」が週二時間設定されていて、英語力に応じて少人数に編成されたクラスで現地のEnglish Teacherが丁寧な英会話のレッスンを行っている。また熱帯マレーシアの特性を生かし、年間を通して水泳学習を実施しているが、そのなかで現地のスイミングコーチが英語で授業を行う「Immersion Swimming」、IS学習」も行っている。「心の教育の充実」では、「考える道徳」

「議論する道徳」の授業改善に取り組むとともに、いじめを未然に防止するための人権教育を全学年で実施している。また、「日本人墓地清掃」などのボランティア活動を行ったり、校外学習において積極的に自然体験活動を取り入れたりしている。

三本柱の活動以外にも国際性を育成する取り組みとして、児童生徒の発達段階に応じて校外学習、社会科見学、修学旅行を実施してマレーシア国内各地を見学したり、現地や現地校との交流を目的に「カンボンホームステイ」「国際交流会」を実施したりするなど、マレーシアをもっとよく知るための活動を展開している。また、全校児童生徒や教職員がさまざまな国の民族衣装を着て一日を過ごす「民族衣装の日」も年に三回実施している。マレーシアの伝統衣装バジユクロンやバジユメラユ、中国正月を意識した中華系の衣装、日本の浴衣や甚平などの和装姿も見られるなど、学校を挙げての取り組みはたいへん好評である。

これからも五十五年の伝統を受け継ぎ、日本人としてのアイデンティティをベースに「知・徳・体」のバランスの取れた世界で活躍できる人材の育成に努めていきたい。(二〇二三年三月現在)

グアム補習授業校

グアムの海と2022年の初日の出



COVID-19 状況下のグアムの中心街



Supplementary Lesson School of Guam

URL <https://japaneseschoolguam.com>

児童生徒数 幼=7人 小=46人 中=13人 日本語学級=15人

日本からいちばん近い
アメリカ合衆国

日本の南東約二五〇〇キロメートルに位置する、マリアナ諸島最大の、サンゴ礁で囲まれた自然豊かな島がグアムである。海洋性熱帯気候で、年間平均気温は約二十七度と過ごしやすく、年間を通して海水浴などのレジャーが楽しめる。

人々は穏やかな性格で、またとても親切で人懐っこい。休日には、家族でレジャーやバーベキューなどを楽しむ光景がビーチや公園などでよく見られる。COVID-19の影響で観光客が激減し、グアムの主要産業である観光業が大きな打撃を受けている。



校舎全景



ディスタンスを取ってのクリスマスイベント

日本教育の
よさの再発見

グアム補習授業校は、全日制の日本人学校と同じ校舎を併用している。ここ数年はCOVID-19の影響も重なって児童生徒数が減少しているが、本校は案じていた以上の影響は受けていない。その理由は、現地校に通ってアメリカの教育制度に基づく授業を英語

で受けながら、日本語の学習も補習して身につけようという子どもたちの意識の高さにあるように思われる。日本の教育システムや日本文化に興味を持ち、そのよさを理解してとり入れたいと考える現地の家庭も増えてきている。両親共に日本人ではない児童生徒も、楽しんで日本語会話などを学んでいる。今後、現地の家庭も巻き込んだ日本人の学校、補習授業校としてのニーズを探り、新たな挑戦もしていきたいと考えているところである。

補習授業校での成長を願って

土曜日の午前中に四時間の国語学習をプリスクールの子どもたちと小学部五年生か

子どもたちから

いろいろレベルがあるから自分にあった勉強ができる(14)

週に一回友達に会えるのが楽しみです。(中2)

修学旅行で日本の歴史を学び、おいしいものを食べることができたのが楽しかったです。(中3)

ブリススクール みんなで協力してカードづくり



日本語会話クラス 小さな子どもたちのクラス



小学部2年
休み時間 遊具で遊び



中学部2年 イベントの準備



小学部3年 算数の学習



小学部5年 国語の学習「教科書音読」



中学部3年 漢字習熟度別学習クラス

ら中学部三年生までが、また午後には四時
間の国語学習を小学部一年生から四年生ま
でが行っている。

本校の特色としては、第一に言語環境を
日本語ベースとしていることである。家庭
では日本語になかなか触れる機会が少ない
児童生徒にも、学校で身につけた日本語を
持ち帰って家庭でも使えるように考えて指
導している。

第二の特色は日本語検定や漢字検定を参
考にクラス分けを行い、習熟度別の学習を
行っていることである。午前・午後共に学
年の枠を超えて、習熟度に応じた日本語や
漢字の学習を行い、最終的には検定合格を
目指す。検定を学校で受検できることも児
童生徒の大きな励みになっている。

第三は、音読学習や作文指導など、教科
書で学ぶだけでなく、継続して日本語環境
を意識できる学習を積極的にとり入れている

ることである。「音読カード」などを活用
して、家庭でも本を音読するなど日常的に
日本語を発する機会をつくっている。また
年度末には全校で文集を作成するため、日
本語の表現力や語彙力をつける学習にも力
を入れている。

COVID-19のためにさまざまな学校
行事が中止となり、全校で触れ合ったり励
まし合ったりできる環境が失われてしまっ
た。日本語の表現力をさらに向上させてい
くためには、形を変えて工夫し、児童生徒
が身につけた能力を発表披露する場を設け
てあげたいと教職員は考えている。

本校の児童生徒は、現地に通いながら
も、さらに日本語を学習したいと進んで集
まってきた意欲的な子どもたちである。そ
の思いを受け止めて、大きく成長させるべ
く指導している。

(二〇二三年一月現在)

台北日本語授業校(TJSS)校歌 (台北補習授業校)

1

みんなは仲間 虹の架け橋 日本語と共に 友達を作り
ここで支え合っている
心の友に めぐり会えたよ 一緒にはげましあったよ

ぼくらが集う台北日本語授業校
心のとびら開けたら 未来があるよ
出会った人みんなの気持ちに ありがとう

土曜の朝は ねむい目こすり 通ってきたら
笑顔に出会う ここがわたしの学び舎
苦しい時も 力が出なくても 一緒に肩たたき合おうよ

2

きみもあなたも ここで知り合い 日本語を学び
同じ教室で 机を並べ合って
虹っ子はみな 大きな心 いつも持ち続けている

みんな集まれ台北日本語授業校
いつも輝くひとみで 明日を見つめ
日本と台湾をステップに世界へ

泣きたい時も やめたい時も 一緒に乗り越え
声を出し合って ここがみんなの居場所
大人になって きっと思い出す 一つの心のふるさと
Yeah!

URL をタップして台北日本語授業校の校歌を聴いてみよう
<https://www.tjss.org.tw>

台湾から
未来へ羽ばたく
虹っ子たち



年に一度の学習成果発表会で緊張しながらも練習の成果を出しきる虹っ子たち。合唱、朗読、演技などクラスごとに工夫を凝らし、個性が光る。

本校は毎週土曜日の朝、日本にルーツのある子どもたちに日本語で学習する場を提供しています。保護者全員参加のボランティアによる運営です。将来、日本と台湾のかけ橋となることを願って、子どもたちを「虹っ子」と呼んでいます。

校歌は二〇一〇年に創立十周年を記念してできました。みんなの思いを集めて、当時の在校生の保護者が作成しました。

「続けていればきつと未来が開けるよ」という応援の意味と、た

くさんのかたに出会ったことへの感謝の気持ちが込められています。平日は現地の学校に通いながら、土曜の朝も早起きして眠い目をこすりながら本校に通う子どもたち。いつの間にか口ずさんでしまう楽しいメロディーと合間に入る手拍子は、気持ちを高めてくれるだけでなく、ご支援くださる皆さんからのエールとしても心に響きます。

出会った人みんなの気持ちに感謝しながら、これからも末永く、この日本語授業校をかけがえのない学び舎、みんなの心のふるさととして大切にしていきたいと思っています。

・聴けば元気が出る、歌えば楽しくなる、いっしょに手拍子をすれば仲間になれる校歌です。歌詞にあるように私も虹っ子として、「大きな心いつも持ち続け」ていきたいです。(小3)

・校歌を聞くと、日本語授業校でみんなと勉強ができて幸せだなと思います。ここで学んだことが、未来につながっていくといいなと思います。(小5)

・「心の友と巡り合い、共に支え合い励まし合ったよ」と、みんなが共感する思いが歌詞に込められていて、歌ったときに心が動かされる素敵な校歌です。(先生)

子どもは現地校の勉強で 手いっぱい、日本の勉強は すっかりおろそかに なっています。どうすれば いいのでしょうか。



海外子女教育振興財団
教育アドバイザー

後藤 彰夫

プロフィール (ごとう あきお)

千葉県と東京都で教員、ワルシャワ日本人学校
教諭を経て、東京都の公立学校で教頭・副校長・
校長を歴任。2013年から6年ほど本田技研工
業株式会社で教育相談室長を務め、19年より
海外子女教育振興財団の教育相談員。東京都
海外子女教育研究会、全国海外子女教育・国
際理解教育研究協議会事務局局長も務める。

まずは現地での学校生活を
大切に。それでいて、楽し
みながら日本の学習ができ
る方法を！

帰国生に期待するって

帰国生受け入れ校の担当の先
生に、「帰国生が貴校に入るに
あたって、事前にしっかり認識
しておいてほしいことは何です

か？」と伺うと、ほぼすべての
先生がたから、「海外での体験
をポジティブに考え、誇りや自
信を持って『帰国生である』と
言えるよう滞在中に多くのこと
を体験してきてほしい。積極的
にチャレンジしてきてほしい」と
いう内容の回答をいただきます。
帰国生には、現地で暮らすな
かで、日本国内ではできないよ
うな体験・経験を積む努力を積
極的にして、現地で通っている
学校での学習に進んで取り組み、
よりよい成績を得られるよう努
力してほしいと思います。

「期待される帰国生像」Q



「帰国生が貴校に
入るに当たって、
事前にしっかり
認識しておい
てほしいことは
何ですか？」

「帰国生であることに、誇りを持てること、海外での体験をポジティブに考え、自信をもって帰国生であると言えるよう滞在中に多くのことを体験してきてほしい。積極的にチャレンジしてください。」

「期待される帰国生像」



Q 「帰国生が貴校に
入るに当たって、
事前にしっかり
認識しておい
てほしいことは
何ですか？」

日本在住の外国人を
支援できる人材

「帰国生であることに、誇りを持てること、海外での体験をポジティブに考え、自信をもって帰国生であると言えるよう滞在中に多くのことを体験してきてほしい。積極的にチャレンジしてください。」

これらのことを受けて、渡航
前の面談では、たとえばアメリ
カの現地校に通学する予定のお
子さんへは、「読書（はじめは
日本語文、徐々に英語文も）」
に欠かさず取り組み、①現地校
での学習 ②補習校での学習・
宿題 ③通信教育の学習 の順
で取り組んでほしいと話をし
ています。つまり、
○（学習の基本となる）日本語
力・英語力をつけること。
○ 現地校での学習・活動に全
力を尽くすこと。
をお願いしています。

現地ですばらくすると

「現地校の勉強で手いっぱい、日本の勉強はすっかりおろそかに」そして、たとえば「日本の地理や歴史に関する知識がほぼゼロで帰国します。どう取り返していったらよいか」というような課題が、多くのご家庭で発生してきます。かといって、現地校での活動や学習をおろそかにして、日本の学習に重点を置くことは、海外で暮らしたり海外で学んだりする意義を失わせてしまうことにもなりかねません。あくまで、在籍校での活動や学習に尽くすことを基本としなければなりません。

「早く宿題しなさい」

このことばは国内・国外を問わず、各家庭で一度は口にされているものかと思えます。

勉強がもとめ好きな子ども

もいますが、興味が湧かないままイヤイヤ宿題をこなしている子どもも多いことでしょう。

子どもの勉強へのやる気を引き出す方法、それを見つけることは、そう簡単なことではありません。

いずれやってくる帰国、日本国内での学校生活……。大人、保護者にはわかる日本の勉強の大切さが、子どもに伝わりにくいのでは当然といえます。

子どもにとつて、いま、日本の勉強の大切さや日本の勉強をする必要性は何もないのですから

子どもに勉強の楽しさや必要性をどう伝えるか？

「やり方がわかれば楽しい」とよくいわれます。子どもは学習の仕方がわかれば、一生懸命に取り組み、その先を目指します。そして、褒められたり、よい点数を取ったりすることでさらに勉強に打ち込むようになります。現地校での学習に意欲を持つ

たり、学習がスムーズに進んだりしている子どもは、現地校の学習環境（教室、教師の支援、他の子どもからの刺激など）のなかで、学習へのよきサイクルができているといえます。

勉強の必要性を伝えるためのヒントとして、次のものを挙げましょう。

A. 子どもの好きなものと関連づけて教える。

B. 暮らしのなかで勉強が役立つ場面遭遇させる。

C. 世の中の仕事がいかに楽しいか、それに勉強が役立つかを教える。

海外での日本の学習には、A・B・Cにかかわる考え方や学習方法が希薄になっていることが考えられます。

日本の勉強がおろそかになっている子どもへの三つの策

気持ちや日本の勉強に向いていない子どもへどのような手立

てをとっていくとよいのか、具体的な策を三つ挙げます。

しかし大前提として、大切なことは現地の学習・生活を充実させることです。国語と算数数学）だけでも十分ともいえます。日本の勉強は無理をさせすぎないようにしてください。

① 日本の教科書を親子で読む

日本の教科書は素晴らしいです。専門家が知恵をふり絞り、時間をかけて学年ごとに割り当てられた内容が過不足なく編集されています。内容の正確さは間違いないですし、新しい研究の成果なども反映されています。そして、必要な内容がとてもコンパクトにまとめられています。

教科書を隅から隅まで、何度もお子さんといっしょに読んでください（音読も効果的です）。できれば、学習指導要領（文部科学省が学校教育法等に基づいて各学校で教育課程Ⅱカリキュラムを編成する際の基準を定

教科書コラム

△在外教育施設で使用されている社会科の小学校用教科書『新しい社会』（東京書籍）の裏表紙「保護者の皆様へ」より▽

豊かな学びが未来を拓く

小学校の社会科では、3年生から6年生までの4年間で、「地理的環境と人々の生活」、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」、「歴史と人々の生活」について学習します。子どもたちが、社会科での学びを通して、自分の住む地域・日本・世界のことを知り、よりよい社会を形成するために自分たちに何ができるかを考え、国家や社会に主体的に関わる主権者へと成長していくことを願って、本教科書を編集しました。

学校の授業だけでなく、ご家庭での学習や会話などにもぜひご活用ください。

めている）を一読して、内容をかみ砕きながら、お子さんに説明されるとさらに効果的といえます。

（2）新聞を読む習慣をつける

日本の小・中学生新聞でよいので、新聞を読む習慣をつける。新聞を読む意義は、文字媒体を通して「最新のニュースを知る」、「教育・受験情報を得る」ことが中心といえます。海外では不足しがちな日本の情報を得られる重要な媒体です。

そして日本語に触れる機会の少ない海外で生活をしている子どもたちにとつての意義は、これらのこと以上に「平易な説明文を読み、考える重要な機会を得るもの」、また小学生版ですべての漢字にふりがながついていきますので、漢字力に不安を覚える子ども（中・高生でも）にとつては読みやすく、自信がなくなってきた「漢字力の補強になるもの」、「社会へのかかわ

りを増やす素材」ともいえます。教科書同様、親子でいつしよに音読することも効果的です。

△参考▽

朝日小学生新聞 朝日中高生新聞
（朝日学生新聞社）

<https://www.asogaku.com>

読売KODOMO新聞 読売中高生新聞（読売新聞東京本社）

<https://434381.yomiuri.co.jp/losk/>
<https://kodomo.yomiuri.co.jp>

（3）日本の勉強が将来役に立つことを親子で共に考える（まとめにかえて）

まずはお子さんの将来のイメージを親御さんが考えてみましょう。

一つに絞る必要はありません。場合によっては、日本語を母語としない選択があつてもよいでしょう。

そして大切なことは、折りに触れてお子さんと話し合い、い

つしよに考え、進路を進めていくことです。

将来は「外国」で過ごすという道を選択したとしても、日本語や日本語による学習は幅広い考え方をもち、その道で活躍するのに大きく貢献してくれるはずだ。

また、困難のなかにあつて日本の勉強を続ける努力をしてきたという経験と自信は環境の変化への対応力をもつてくれることでしょう。

お仕着せの説諭では、人生経験が少ない子どもは、なかなかピンとこないものです。

会話のなかでは、子どもにとつて「身近」でない日本のことも話題になるでしょう。これは日本の勉強へのモチベーションを上げるいちばんの特効薬かもしれません。

親御さんのいつしよに歩む姿勢や態度に共感してお子さんは成長をしていきます。

親子の会話で豊かな語彙力をつける

高取しづか

コミュニケーションの土台は、語彙力です。英語や他の国の言語をマスターしようと思ったら、その言語の単語にたくさん触れさせること。ご家庭で、楽しく語彙力をアップする工夫について考えてみましょう。

我が家の子どもたちは、中学生の段階でアメリカに渡りました。次女は小学校を卒業したばかりで、英語がまったくわからない状態で現地校に

ことばキャンプとは、7つの力で話す力、聞く力、考える力を育てるトレーニングプログラム

～ 7つの力 ～

度胸力：恐れずに言う 論理力：話を組み立てる

理解力：話を理解する 応答力：受け答えする

語彙力：ことばを知る 説得力：理解してもらう

プレゼン力：アピールする

「自立して生き抜ける子に」 <https://ameblo.jp/t-shizuka/>

幸せになれる子に育てたい <https://www.takatori-shizuka.com>

入りました。学校で取り出し授業を受けたり、家庭教師の先生にお願いしたりして英語の習得に励みました。とはいえ、宿題が「パズル」や「ボードゲーム」など。まるで遊びのようなのです!! 楽しく語彙を増やしていたのが印象的でした。

語彙を増やしていくうえで、こんなエピソードがありました。あるとき「hay」(はい)という単語が出てきて、子どもは辞書で調べていました。辞書には「hay」は「干し草」と書いてありましたが、「hay」そのものを知らなかった子どもは怪訝な顔。発音とつづりを覚えても「hay」がわかったとはいえないのです。体験と結びついたり、文脈の中で理解したりするなど、生きたことばに触れることで語彙力はいくつものです。辞書や図鑑などで単語を覚えさせても、限界があります。実際にそのものを「見る」「聞く」「触れる」「使う」などの体験があることで、語彙力はついてきます。

語彙とはことばのグループのこと。一つのことを多様な

言い方で表現できることが、語彙力が豊富だということ。名作といわれる文学作品などは、詩情あふれることばを使った豊かな表現に魅せられるでしょう。語彙力のある人というのは、たんに知っていることばの数が多いのではなく、「文脈に合わせて適切な語を選ぶことができる人」のことなのです。豊かな表現力の土台となる語彙力とは、奥深いものだと思います。

親子で会話をしながら、語彙力をつけていきましょう。一つご紹介いたしますね。たとえば、夕食のときに「おいしいおかず」を題材にして、家族で表現し合ってみるのです。「おいしい」というワンパターンの表現ではなく、さまざまな言い方を競い合ってみましょう。豊かに表現できると、おいしさをより感じられますよ!

親子のコミュニケーションのなかで、多様なことばを使うことがトライしてみましょ

語彙力トレーニング

△ 語彙力 △

語彙力とは、たくさんのことばや言い方を知っていること。自分が伝えたいことを表現するだけでなく、相手の話を理解するためにも語彙力は大切です。コミュニケーション力の土台になる力です。

また、ことばをたくさん知っていると、微妙な心の動きや気持ちを豊かに表現することができます。読書やことば遊びを通して、できるだけ楽しく多くのことばに触れながら、日常生活のなかで、親子でいっしょに語彙を増やしていきましょう。

ワーク

「おいしい」の表現、いくつ言える? どんなことばで表現できるか、ゲームのようにしてことばを出していきます。

例

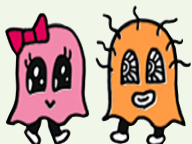
「この唐揚げジュシー」

「口が幸せ」

「ほっぺが落ちちゃう」

語彙力

「カワイイ」や「キモイ」を別のことばで言い換えることができる。



「KANJI」は面白い! 漢字

ブレット・メイヤー



アメリカ・ニュージャージー州生まれ。
非漢字圏出身者で初めて漢字検定一級に合格。

<https://www.facebook.com/BretMayer/>

Many students of Japanese language struggle with the thousands of kanji characters there are to learn. But don't worry! Most Japanese people have trouble with kanji, too!

In fact, Japan created a list of 'general use kanji' 常用漢字 *jou you kanji* to simplify reading and writing of kanji.

First, it reduces the amount of kanji needed for day-to-day life to 2136 characters. Also, it opted to make simplified versions of certain characters the norm.

Some extreme examples include:

law: 灋→法 agency: 廳→庁 yen: 圓→円

Much easier... right?

The left-hand characters are now known as 'old form' 旧字体 *kyuujitai*, and the right-hand characters are their 'new form' 新字体 *shinjitai*.

If a newspaper or TV program needs to use a word containing a character not in the general use set, they replace it with hiragana.

However, this is only the "rule" for public media. Regular people can use whatever characters they wish, which leads to interesting finds such as below:



'Water repellant' 撥水・撥水・はっ水 *hassui*, for example, has three different ways to be written! There is the original form 撥水, a form that mimics the new, simplified general-use kanji style 撥水, and one that uses easier-to-understand hiragana はっ水.

You can find another common example next time to pick up a carton of yoghurt. Often times, the first character 醗 in 'fermentation' 醗酵 *hakkou* will be written simplified as 発酵, or as hiragana はっ酵.

Again, this is because 醗 falls outside of the general-use kanji set, and so, is often simplified or omitted.

If you're out around town, another common sight is 'prescription' 処方箋 *shohousen* written as 処方せん, replacing the difficult 箋 with hiragana.

There are many, many other examples, so next time you see some hiragana placed among kanji, try looking up the word and see what that hiragana might be replacing!

海外子女教育振興財団の 二〇二二（令和四）年度事業計画と予算が決定―

三月二十八日、経団連会館（東京都千代田区）にて、公益財団法人海外子女教育振興財団の二二年度の事業計画および収支予算書が、本財団の理事ならびに監事により承認された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一昨年度は書面の交換、昨年度はオンラインで審議・決議を行ったが、本年度は三年ぶりに対面での開催となった。二二年度の事業計画および予算等は次の通り。

（一）二〇二二年度事業計画

■公益目的事業1

海外・帰国子女に対する教育、海外勤務者及びその家族に対する研修、その他の支援

（1）通信教育（文部科学省補助事業）

帰国後の円滑な学習適応を目的として義務教育年齢の海外子女を対象にした通信教育「小・中学生コース」を実施する。「国語・算数／数学コース」では日々の学習のために国語はブック教材、算数／数学はインターネット教材を提供し、毎月の学習確認のための添削

問題等により添削指導を行う。「理科・社会コース（小学三年生から）」では、日々の学習から学習確認までをネット上で行えるインターネット教材を提供。さらに、就学前の0歳から六歳までの幼児を対象に、読み聞かせを通して母語である日本語に触れてもらうための絵本の配本サービス「幼児コース」を実施する。

（2）外国語保持教室

帰国子女が海外生活で身につけた語学力を保持するために、関東地区、中部地区、関西地区及びオンラインコースにて、英語及びフランス語のクラスを開講する。夏期には東京・名古屋・大阪においてサマースクール、論題に柔軟に取り組み即興で議論を組み立て、英語でジャッジを説得する「パラメンタリーデイベート」のワークショップなどを開催し、受講機会と内容の拡充をはかる。また、受講生の保護者を対象とした帰国子女の進学やキャリア選択につながる講演会や相談会を複数実施する。

（3）講習会

海外赴任者やその帯同家族（配偶者及び子女）を対象に、出国前の不安を解消し、海外での生活を充実したものとするための講習会

「現地校入学のための親子教室（WEBコースを含む）」、「渡航前配偶者講座（WEBコースを含む）」、「赴任前子女教育セミナー」及び「渡航前子ども英語教室」を開講する。なお、講習会の抜本的見直しに取り組み年度とする。

（4）教科書配付（文部科学省依頼事業）

保護者の海外赴任に伴って出国する義務教育年齢の子女に対して、窓口（東京・大阪）で日本の教科書を配付（または送付）する。また、海外から在外公館経由での追加配付申請があった場合も送付する。

■公益目的事業2

海外の日本人学校・補習授業校等に対する運営上及び教育上の支援

（5）教材整備（文部科学省補助事業）

政府援助対象の日本人学校・補習授業校・私立在外教育施設に対して、日本国内の小・中学校の整備基準に準じて、国庫補助金により教材・教具等を手配し送付する。

（6）教材^{あつせん}斡旋

学校独自の予算より購入を希望するワーク・ドリル類、デジタル教材、学校備品、補助教材等を手配し送付する。

（7）保険の斡旋

文部科学省の依頼で創設した政

府派遣教員とその帯同家族を対象とする医療補償制度のほか、在外教育施設向けの海外学校傷害保険、海外学校賠償責任保険、海外学校ボランティアアサポート保険について、加入の取りまとめ等を行う。

（8）安全対策援助等

日本人学校・補習授業校を対象に、在籍児童生徒の安全確保や感染予防対策を目的とした資金援助を実施。また、在外教育施設で発生した想定外の自然災害や火災等緊急事態の被害により、児童生徒の当面の授業にも支障を来す場合には緊急の資金援助を行う。

（9）運営支援

日本人学校・補習授業校の学校運営に関して、教職員の雇用支援、スクールカウンセラー等による教育支援を行う。また、日本国内の団体が在外教育施設に対して行う教材、図書等の寄贈やコンクール・コンテスト等の広報、日本人学校・私立在外教育施設のICT環境充実のための支援を実施。さらにグローバル人材育成や特別支援教育・ICT教育等の推進と国際交流拠点としての機能強化を目的とした在外教育施設への支援及び教育プログラム開発等を行い、教員のグローバル化にも取り組む。

(10) 寄附金の募集

在外教育施設等からの要請に基づき、校舎建設等の資金調達のための寄附金（特定公益増進法人に対する寄附金等）の募集を行う。

(11) コンクール

海外での日本語学習を促すため、海外子女を対象とした文芸作品コンクール（第四十三回）を開催。作文・詩・短歌・俳句の四部門において、各部門の優秀者には文部科学大臣賞、各協賛団体賞、海外子女教育振興財団会長賞をはじめとする各賞を、優れた作品が多数認められた学校には学校賞を授与する。

海外・帰国子女教育にかかる教育相談・情報提供・広報・啓発及び調査・研究

■公益目的事業3

海外・帰国子女教育にかかる教育相談・情報提供・広報・啓発及び調査・研究

(12) 教育相談

在外教育施設や帰国子女受入校での教育経験を持つ専門的教育アドバイザーが、出国前から帰国後までの教育事情や学校選択、特別な配慮を要する子女について等、外部の専門家と連携して、教育に関する相談対応をWEB・面談・Eメールにて実施する。また、企業や学校等の要請に応じて、国内

外で講演会や相談会などを行うとともに、帰国生受入校と連携し、受け入れ環境のさらなる整備をはかるために、新たに専任の受入校コンシェルジュを配置する。

(13) 情報サービス

海外赴任者やその家族、海外進出企業・団体からの問い合わせに対して、アドバイザーや情報提供を窓口・電話・Eメール等で行う。

(14) 企業・団体会員等への支援

企業・団体が実施する海外赴任者研修等に教育アドバイザー等を講師として派遣し、海外子女教育に関する講演及び教育相談を行う。また、企業・団体の海外駐在員派遣業務担当者を対象とした海外・帰国子女教育に関するセミナーを開催する。さらに、在外教育施設の基本情報及び学費等の調査を行い、その結果を専用サイト上で提供、または資料を配付する。また、さまざまな問い合わせに対して、アドバイザーや情報提供を行う。

(15) 帰国子女教育支援

海外子女が帰国するにあたり、希望する学校の受入条件や状況を把握できる機会を設けることを目的として、帰国子女受入校、教育アドバイザーによる情報提供・説明会・相談会を実施。また、帰国

子女の受入校や帰国子女教育に積極的にかかわる機関に対して支援を行うとともに、帰国子女教育に関する学校会員連絡協議会を開催し、帰国子女教育の振興をはかる。

(16) 調査・研究等

在外教育施設や帰国子女受入校を含め、海外・帰国子女教育に関する調査・分析や図書・資料等の収集を行うとともに、必要に応じて海外の現地校等の実態調査を行う。また、海外・帰国子女教育振興のための提言を行う。

(17) 刊行物・資料等配付

次の刊行物等を発行・頒布する。
・月刊『海外子女教育』（WEB版）
・『新・海外子女教育マニュアル』
・『帰国子女のための学校便覧』（年刊）
・『地球に学ぶ』（海外子女文芸作品コンクール作品集）（年刊）
・『海外で暮らして／体験したこと、学んだこと』（海外子女文芸作品コンクール35周年記念作文選集）
・『英語ナビ』
・『言葉と教育』
・『サバイバルイングリッシュ』
・『ぬりえさばいばるいんぐりっしゅ』
・『新・私たちはいかにして英語を失うか』
・『インターナショナルスクールに通うということ』
・『日本人学校に通うということ』
・『母語を育てるということ』
・『海外子女教育手帳』
・『母語の大切さをこぞ存知ですか？』
・『現地校入学のために』アメリカ編及びイギリス編
・『帰国に向けて』
・『お子さんの外国語保持のために』
・『小さな子どもと送る海外生活』
・『海外赴任前のご家族の生活準備教室』
・日本人学校・補習授業校別パンフレット
・『はんかちさばいばるいんぐりっしゅ』

(2) 二〇二二年度収支予算

経常収益

…十二億五三六二万九千円

経常費用

…十三億四三二万八千円

右記承認されたほか、「資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類」に関する議案が審議され、報告事項含めすべて異議なく承認された。

二〇二二年度新規援助対象校

二〇二二（令和四）年度から次の補習授業校が政府援助の対象となった。

- JCS 日本語学校シテイ校補習授業校（オーストラリア）
- クラブヴォワ・ラデファンヌ補習授業校（フランス）

ウクライナ避難民の子どもたち受け入れに関する支援プロジェクトを開始（海外子女教育振興財団）

ロシア・ウクライナ情勢を見据え、日本政府はウクライナ避難民の日本国内への受け入れを三月二日に表明し、すでに入国が始まっている。今後、どのくらいのウクライナ人が日本への避難を希望するかは未定だが、状況次第では希望者が増えたり滞日期間が長期化したりすることも想定される。

政府は避難民を支援する態勢づくりを課題とし、住居の確保をはじめ、就労や就学等へのサポートについて省庁を横断して検討を重ねている。

この動きを受け、本財団は避難

民の子どもたちのために、ウクライナ語版『ようこそ、にほんへ』（はじめて日本の学校に通う子どもたちのために、日常よく使うことばを読み方含め、ウクライナ語で説明するとともに、日本の学校についてウクライナ語でわかりやすく紹介するページ）を作成中で、できあがり次第、早急に配付することを検討している。

実際に翻訳等の支援を行っているのはウクライナ人のフェスコバスヴィトラナ氏。日本の大学への留学経験を持ち、二〇〇八年に来日してから日本の企業で働き、現在は小学三年生の子どもを持つ母親でもある。

今回の支援プロジェクトに参加した理由について、「初めて来日されるウクライナの人たちは情勢の見通しが立たないなか、日本語がわからないことで情報収集やいろいろな手続きを含め、どう生活していけばいいのか不安でいっぱいだと思う。特に子どもを持つ親にとっては、学校をはじめ教育に関する心配はとて大きいはず。少しでも早く、楽に日本になじんでもらえるよう役に立ちたい」と力強く話した。

そして迎える側として、特に子

どもたちへの接し方について「日本での滞在は場所も期間もさまざまだと思うが、とにかく子どもが子どもらしく過ごせる環境を整えてあげることが大切。それが今後のがんばる力につながっていくのではないかと思う」と述べた。

さらに避難民へのメッセージとして、「日本はいい国。日本人は優しい人が多く、ウクライナをサポートしてくれている。心配は尽きないと思うが、考えすぎずに流れに任せ、この困難を皆で乗り越えて、早く戦争が収まることを祈りましょう」と静かにエールを送った。

なおウクライナ避難民に関する本財団の支援はこれにとどまらず、先を見ながら臨機応変に、継続的に行っていく。



『ようこそ、にほんへ』の作成について打ち合わせを行うフェスコバ氏と本財団教育アドバイザー（4月1日、本財団にて）

二〇二二年度「学校説明会」をオンラインで開催

（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団は、小学生から高校生、その保護者を対象に、帰国後の学校選択における悩みや不安の解消、国内の帰国生受入校の情報提供等を目的とした海外子女・帰国子女のための「学校説明会」をオンラインで開催する。

日時や実施内容、参加方法等に関する詳細は決まり次第、随時ホームページ等に掲載していく。

https://www.joes.or.jp/kokunai/kokunai_setsumeikai

問い合わせ先 海外子女教育振興財団 情報サービスチーム

「帰国子女受入コンサルティング」サービスを開始（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団は本年度より、帰国子女受入校へのサポートを通じて、海外子女が帰国後に国内の学習環境にスムーズに適應できるように、「帰国子女受入コンサルティング」という新たなサービスをスタートさせた。

帰国生受入校で長年の教員経験

を持つ本財団の元教育相談員（現・教育アドバイザー）が「帰国生受入校コンシエルジュ」となり、海外生や帰国生の現状および動向、編入学を含めた受け入れにかかわる留意点等について、国内の学校を対象にさまざまな相談に対応する。

また、定期的に実施している「JOES 会員校オンラインサロン」や学校会員連絡協議会において、帰国生の受け入れに関するトピックスを取り上げ、情報交換の場を提供していく。

詳細や問い合わせ先は左記のサイトをご参照ください。

帰国子女受入コンサルティング・海外子女教育振興財団コーポレートサイト (joes.or.jp)

「JOESオンラインサロン」開催に関するご案内 （海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団は本財団の会員校を対象に、帰国生受け入れに関する現状や課題等について、本財団の「帰国生受入校コンシエルジュ」等による司会進行でぜひくばらんに語り合い、情報を交換する会を毎月開催している。

これまで「他校と交流できるチ

ヤンスはたいへん貴重」、「柔らかな雰囲気で、気さくに相談できるのがあるがたい」「海外子女や帰国子女の最新の情報を教えてもらえるので勉強になる」などの感想が多く寄せられている。

参加のご希望等、「JOES オンラインサロン」に関する詳細は左記のサイトをご参照ください。

帰国子女受入コンサルティング・海外子女教育振興財団コーポレートサイト (joes.or.jp)

「会員校掲示板」記事募集 （月刊『海外子女教育』編集部）

本年度より、本誌「ニュース欄」のなかに「会員校掲示板」というコーナーを設ける。

会員校を対象に、読者に伝えたい学校のイベント等について、100字以内の説明文と共に詳細のわかるHP等にリンクを張って紹介する。

記事は随時、募集する。概要は、次の通り。

〈募集要項〉

- ・内容は、一般に公開されるイベントに限る。
- ・イベントの開催時期は、三カ月前のものまで（例：七月号に掲載

載するとしたら、九月末までのイベントに限る）。

掲載期間は、イベント開催月の号まで（例：七月一日開催のもの

は七月号まで掲載）。

掲載を希望する場合は、掲載したい号の二カ月前の月末（例：七月号の場合は五月末）までに申し込むこと。

〈記事例〉

「〇〇高等学校（・県・市）六月十日に英語による校内ディベート大会をライブ配信します。企画運営は、ジャッジ含めてすべて生徒が行います。」

「△△学園（・県・市）七月五日に学校説明会を行います。校長や教員のほか在籍している生徒も多数参加します。個別相談の時間もありますのでふるってご参加ください。」

〈必須項目〉

- ① 学校名
- ② 学校所在地（都道府県・市町村）
- ③ イベント名
- ④ イベント開催日時
- ⑤ 一〇〇字以内でイベント内容の説明

⑥ 記事詳細のリンク先

*掲載の有無や文言等に関しては編集部にご一任ください。

問い合わせ・申し込み先
月刊『海外子女教育』担当
kikanshi@joes.or.jp

第五回トリエンナーレ 自由の女神アート作文コンクール募集要項 （ニューヨーク育英学園）

趣旨 豊かな情操を育むことを目的に三年に一度開催。想いを発信し、他者の発信にも耳を傾けられる交流の場を期待する。

応募資格 幼稚園児から高校生まで（作文部門は小学生以上が対象）。滞在国や国籍は問わない。テーマ「いきる」「今」やつてみたいこと」

募集部門 絵画・作文（自筆の日本文で書かれたもの）の二部門。募集期間 六月一日～十月三十一日。賞 各部門、グランプリほか。

発表 二〇二三年三月一日
詳細・問い合わせ先
ニューヨーク育英学園

<http://www.japaneschool.org>

新規ご入会維持会員

- ・目黒星美学園中学高等学校
- ・UBE三菱セメント株式会社

第43回海外子女 文芸作品コンクール概要

主催：公益財団法人 海外子女教育振興財団

今年も海外子女文芸作品コンクールの開催が決まりました。

海外生活で子どもたちが体験したさまざまな出来事や、それらを通じて感じ、考え、感動したことなどを、日本語の作文や詩、短歌、俳句で表現してもらうこのコンクールは、1979年から毎年開催されています。昨年は新型コロナウイルス禍にありながら世界各地から総数にして18,815点もの作品が寄せられました。受賞者には例年、素晴らしい賞品も用意されています。

これまで以上にたくさんの応募があることを期待しています。



入選者に贈られる記念
楯・記念メダルに刻ま
れたレリーフ

◆募集要項◆

●応募資格

保護者の海外勤務等に伴い、現在、海外で日本の小学1年から中学3年の学習をしている児童生徒。

●テーマおよび募集部門と点数

テーマ 海外生活を題材にしたものであれば自由
募集部門および点数

作文・詩・短歌・俳句の4部門。1人あたり
の応募できる数は次の通り。

- 1 作文…1人1点
- 2 詩…1人1点
- 3 短歌…1人3点以内
- 4 俳句…1人3点以内

●募集期間

2022年5月1日から7月15日まで。

●応募方法

1 作文・詩

(ア) 市販または本財団ホームページからダウンロードした原稿用紙をタテ書きで使用
(イ) 作文については、小学生は2000字以内、中学生は3200字以内。詩については、小・中学生共に1200字以内。

(ウ) 応募作品は、各人各部門ごとに用紙を別
にすること。

(オ)(エ) 原稿用紙は、表面のみを使用すること。
応募作品は、所定の応募票を各人各部門
ごとに作品の右肩に貼付のうえ、原稿用
紙を広げて右肩を1カ所とじる。

2 短歌・俳句

所定の応募用紙を使用し、「A4サイズ」に統一（小学校低学年生用には拡大コピーしても結構です）。

*応募票・応募用紙については日本人学校および補習授業校等にお知らせしているほか、本財団ホームページにも掲載しています。

3 日本人学校および補習授業校に通学する児童生徒は、各学校に提出方法を問い合わせること。

4 送付先および問い合わせ先

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4

海外子女教育振興財団 事業部教室事業チーム
愛宕東洋ビル6階

Eメール kyoshitsu@joes.or.jp

URL <https://www.joes.or.jp>

●応募上の注意事項

※新型コロナウイルス禍の特別措置として、次の対応をいたします。

1 日本に一時帰国中の場合でも、在外教育施設等に在籍中であれば応募可能。

2 手書きの作品をスキャナやデジタルカメラ等で撮影したPDFなどの電子データ（テキストデータやWORDなど）手書きでないものは不可）にしたものを印刷し、学校で取りまとめられた場合も受けつける（ただし、文字を判読できない場合は審査対象外となりますのでご注意ください）。

3 上記1・2の対応が困難な場合は、在籍児童生徒が個々に個人応募し「個人応募用紙」

◆開催趣旨◆

現在、海外に在住する日本人の子どもの数は、小・中学生段階で約九万人に迫る勢いとなつていますが、これらの子どもたちは日本人学校や補習授業校、通信教育など、さまざまな形で日本の勉強に取り組んでいます。滞在年数も長短まちまちですが、いずれも言語・風習・気候風土・治安など日本と異なった生活環境のなかで、いろいろな得がたい経験を積みながら学習し、成長している子どもたちです。こうした海外に住む子どもたちが、年齢相応に感じ、考え、感動したことを母国語である日本語によつて表現することは、日本語学習のうえからも、日本人としての人間形成のうえからも大切なことです。

そこで本財団では、海外で学ぶ小・中学生に、日本語に対する興味・関心を持続させ、国語力を伸長させると同時に、貴重な体験を発表する機会ともするべく、毎年このコンクールを開催しています。

本年度も下記の内容で実施します。世界各地からできるだけ多くの子どもたちが参加し、海外で日本語と真剣に取り組んだ成果を発表してくれることを期待しています。

—日本人学校・補習授業校等の

先生がたへのお願い—
学校単位でご応募いただく際には、別途お知らせしています所定の「応募用紙」および「集計表」にて取りまとめをお願いします。

の「学校名」の欄に在住国在籍校名を記入することで、在籍校からの応募作品とする。
*学校ごとの正確な応募作品数の把握が困難となるため、学校賞の対象から外れる場合があります。

- 4 締め切り日までに作品が到着できないことが予想される場合は、作品を電子データ(約30MBまで)で応募することも可能(データの送付が困難な場合はご連絡ください)。
- 5 応募作品は、応募者の創作によること。
- 6 応募作品は、応募者の自筆によること(応募票は保護者や先生による記載可)。
- 7 応募作品は、今回のコンクールのために書き起こしたオリジナルなものに限る。
- 8 応募作品は返却せず、本財団が3年間保管したあと、責任を持って破棄する。
- 9 入選作品の著作権・出版権は、主催者に帰属する。

●審査基準

専門家が次の点に重点を置いて審査しますが、入選作品でも選者(審査員)の手が入る場合があります。

- 1 海外生活での新鮮な感動・実感や経験を踏まえたもので、適切な表現がなされた作品であること。
- 2 年齢(学齢)にふさわしい作品であること。

●表彰

- 1 各部門の優れた作品には、それぞれ文部科学大臣賞をはじめ、海外子女教育振興財団

会長賞、日本放送協会賞、協賛者賞の各特別賞が授与され、そのほかに特選、優秀、佳作が選ばれる。ただし、以前に文部科学大臣(奨励)賞または海外子女教育振興財団会長賞を受賞したことのある応募者の、同部門での重複受賞はないものとする。

- 2 入選者には、賞状が授与されるほか、「優秀」以上には記念の楯と作品集『地球に学ぶ』『佳作』には記念メダルが贈られる。
- 3 在籍児童生徒数に比して多数の応募があり、かつ優秀な成績を挙げた学校には「学校賞」が授与され、賞状のほか副賞が贈られる。

●審査結果の発表

本財団ウェブサイトをほか、月刊『海外子女教育』(2022年11月号)にて掲載予定。

●作品集の刊行

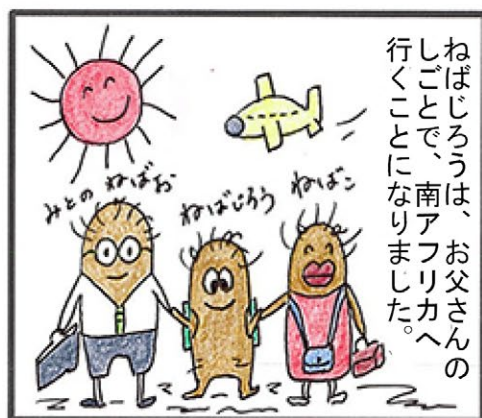
作品集『地球に学ぶ』第43回を刊行し、「優秀」以上の入選作品を掲載する(『地球に学ぶ』の制作は、エ・デュース社が行います。本財団は制作に関する情報のみを提供し、適正な監督を行います)。

●経費

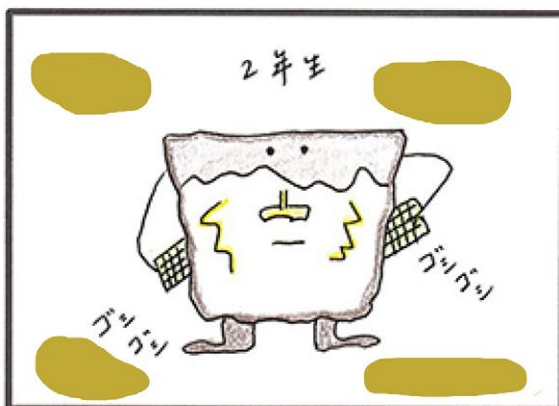
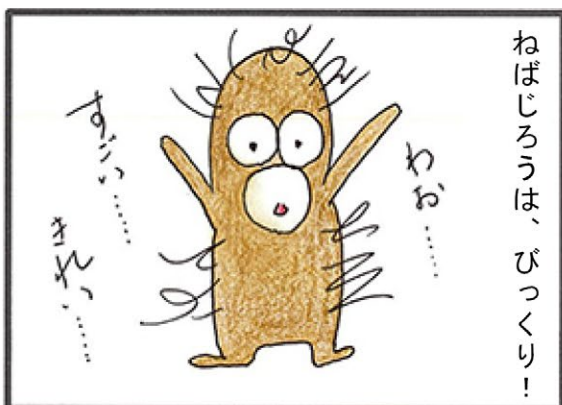
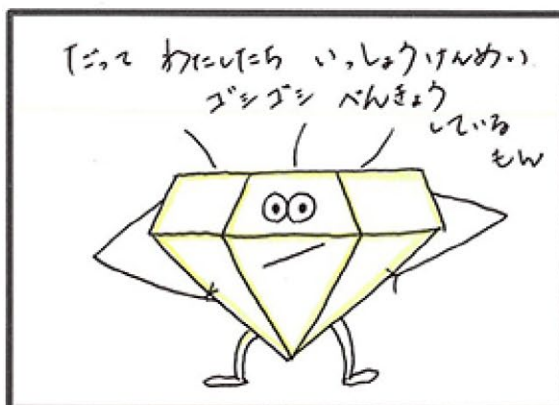
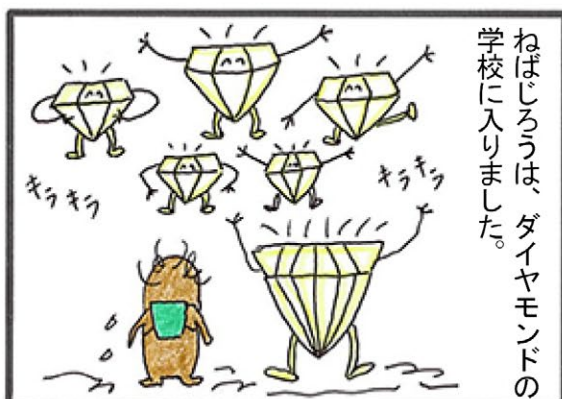
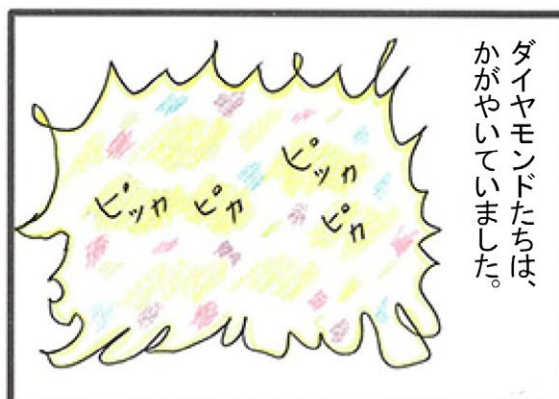
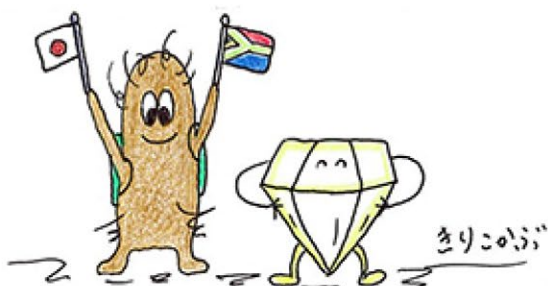
応募までの費用は応募者の負担とする。応募後の審査に要する費用、入選者に対する賞状・賞品の発送までに要する費用は主催者が負担する。

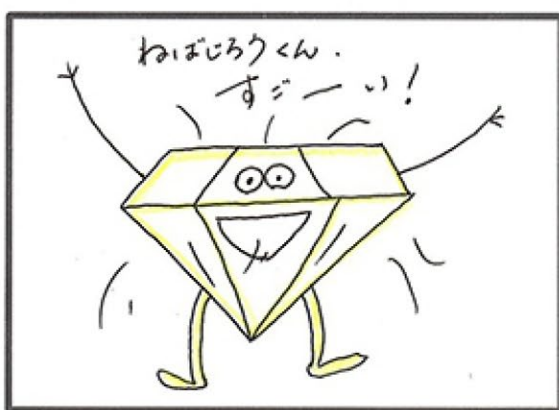
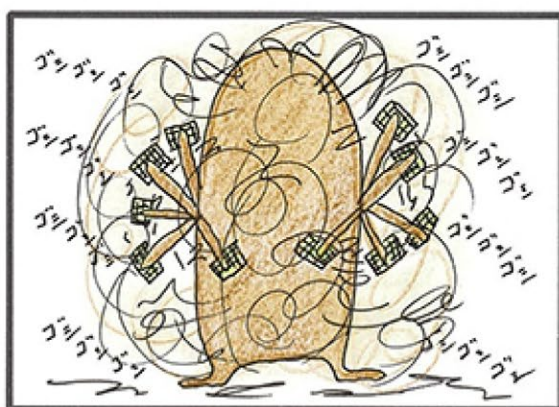
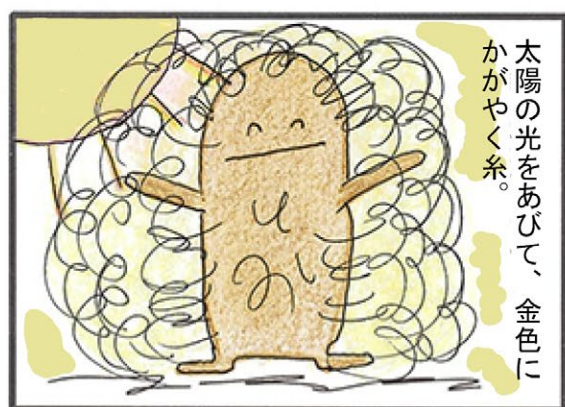
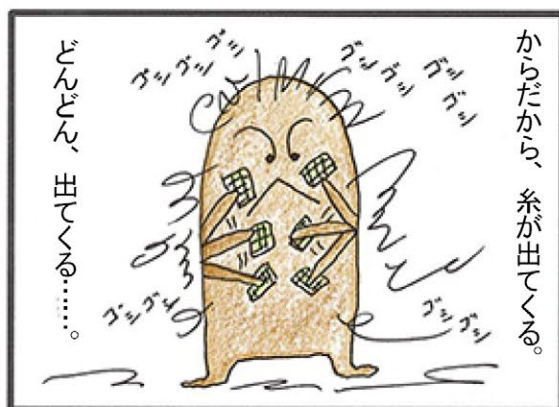
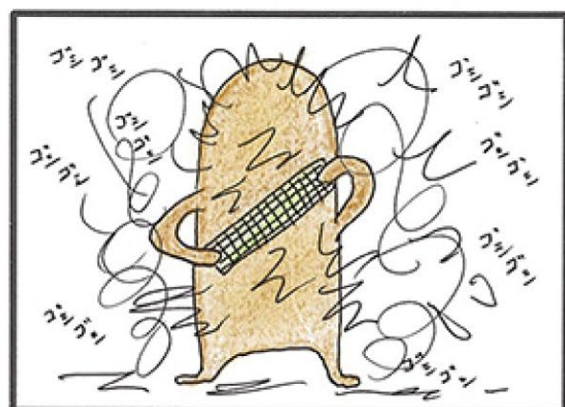
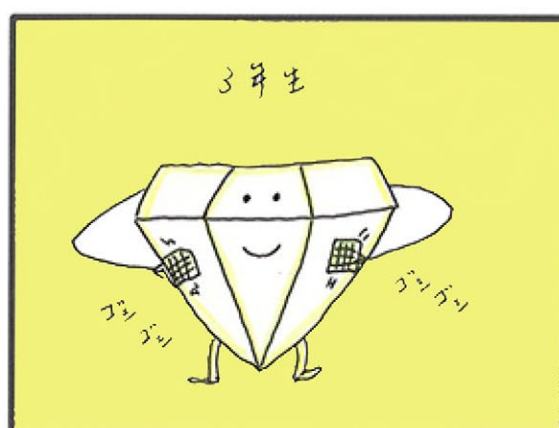
ただし、受取費用が発生する場合は受取者の負担とする。





なっとう ねばじろう 南アフリカ共和国へ行く





編集後記

❖次号以降の取材日程、先行しているものもあれば難航しているところもあり。いずれにしてもこころよく協力してくれる方々なしに本誌の編集作業は進まない。お願いのメールには「幸甚」「深謝」「感激」など最大級の言葉を並べるのが常になった。いずれも本音です。(淳)

❖よし終了、コロナダイヤでも時間は十分！と思ってオフィスを出たが、最終電車は途中駅まで。タクシー待ちも長蛇の列。6駅歩くか。1つ目の駅まで20分。楽勝。それにしても人一杯で居酒屋花盛り。皆我慢してたのだろうけど…。その後歩みは遅くなり最後の1駅は50分かかった。(然)

❖「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」(ユネスコ憲章前文)。連日報道されるウクライナの惨劇。今こそ、いかなる立場の人にとっても平和より大切なものはないと信じる心の連帯を、身近なところから広げたい。(島)

6月号「特集」の予定は…

- 社会に対して声を上げる若者たち
- 海外で読むマンガ

2022年5月号 No.591

発行 2022年5月1日

定価 本体700円+税

発行人 綿引 宏行

編集人 島田 誠一

公益財団法人

発行所 海外子女教育振興財団

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4
愛宕東洋ビル6階

制作協力 Roots International

(株)東京美術

※無断での改変・再販を禁ず。

※本誌購読料は、財団維持会員の場合は会費に含まれます。

■ 投稿募集ほか ■

本誌への投稿や関連情報の提供を随時受けつけています。

お名前とご連絡先を明記のうえ、「月刊『海外子女教育』編集部」宛てとして、E-mail、FAX、郵便のいずれかでお送りください。

◎海外・帰国子女教育、国際教育関連の論文やエッセイ、研究レポート

◎海外・帰国子女教育、国際教育関係の研究発表会などの催しのご案内

◎連載「家族/クロスカルチャー」取材対象家族を募集しています。

海外生活にまつわるご家族のエピソードをお聞かせください。

◎「みんなの広場」タイトル文字、作文・詩・短歌・俳句、習字・イラストなど。

大人のかたの投稿(1200字以内)も大歓迎です。

※掲載・不掲載にかかわらず、作品は返却いたしませんので、ご了承ください。

※掲載作品に関する著作権は本財団に帰属することとします。

※二重投稿はご遠慮ください。

※お知らせいただいた個人情報、作品掲載以外の目的では利用しません。



❖世界中がコロナ禍に巻き込まれて2年以上……。

この写真はいまから15年前、東京のとある商店街のお祭りで撮った一枚です。マスクなし、みんなで密になっての金魚すくい、一日も早くこんな日がきますように。(松)

1都1道2府43県めぐり クイズ解答

① C ② A

本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。

海外子女教育振興財団 月刊『海外子女教育』編集部

● E-mail kikanshi@joes.or.jp

● TEL 03-4330-1350 / FAX 03-4330-1355

● URL <https://www.joes.or.jp>[国内購読料] 1カ月770円：1年間9,240円
※バックナンバーの販売もしています。

[海外購読料] 1カ月950円～1,050円：1年間11,400円～12,600円

★ ユニヴァプレス

<https://univpressnews.com/>



東大合格者速報でおなじみの
大学通信が発信する学校情報。
わりと真面目に教育と学校と
その他の情報について
発信しています。

WEB限定記事

- 生徒が主体的につくりあげる駒場
東邦の学校行事修学旅行先はプレ
ゼン大会を通じて自分で決める！
- 日本一「面倒見の良い」女子大
学、岐阜女子大学に行ってみた！
- 「福祉」ってなんだろう？
東北福祉大学で聞いてみた。
- 専門家に聞いた！
理学療法士ってどんな仕事？

...etc



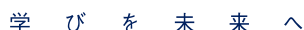
学 び を 未 来 へ
大学通信

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-3
TEL.03-3515-3591(代表) FAX.03-3515-3558
<https://univ-online.com/>

大学通信

<https://univ-online.com/>

いち早く公開!



大学通信

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2-3
TEL.03-3515-3591(代表) FAX.03-3515-3558
<https://univ-online.com/>